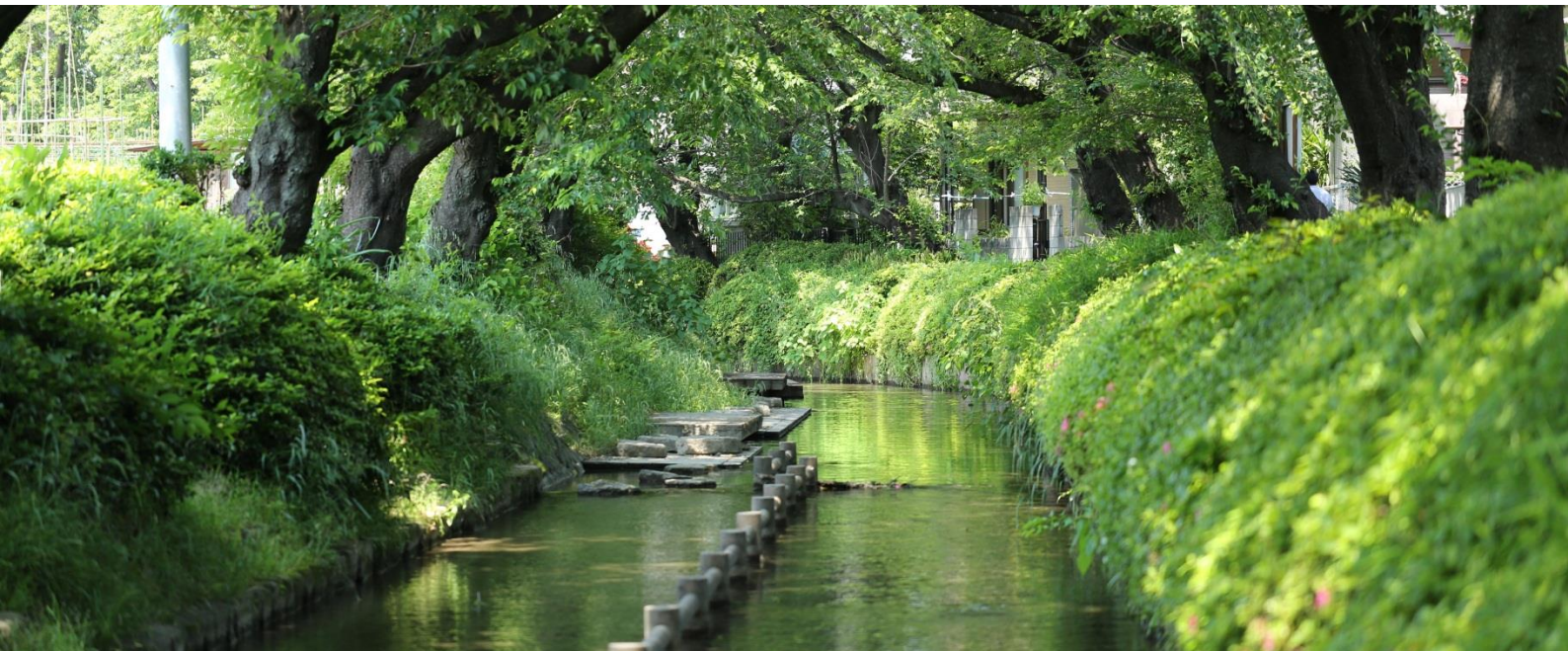




FUJITSU GENERAL GROUP ENVIRONMENTAL REPORT
富士通ゼネラルグループ 環境報告書 2015



FUJITSU GENERAL LIMITED
株式会社 富士通ゼネラル

編集方針

「富士通ゼネラルグループ環境報告書 2015」は、富士通ゼネラルグループの最重要課題のひとつである環境活動について、2014年度の実績とその内容などをご報告するものです。

■ 主な事業活動の変化（2014年度）

富士通ゼネラルグループの構成会社に変動はありません。

事業拠点の変動

- ・山形県新庄市で富士通ゼネラルが保有（一部業務に使用）していた、旧・株式会社新庄富士通ゼネラル（2009年に解散）の工場・社屋を売却しました。

■ 本報告書の想定読者

お客様、社員、株主・投資家、お取引先・事業パートナー、国際社会・地域社会、公共機関、行政などのステークホルダーの方々に読者に想定しています。

■ 報告期間

2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の活動を中心に報告しています。ただし、一部は、それ以外の期間の内容を含みます。

■ 報告対象組織

富士通ゼネラルおよびその連結子会社を報告対象としています。ただし、報告内容によって報告の範囲は変動します。

		環境活動報告	環境会計	環境行動計画指標	エネルギー	温室効果ガス	大気排出	水資源・排水	原材料・調達	廃棄物	化学物質	財務報告
富士通ゼネラル		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
グループ会社	日本	生産	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
		非生産	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
日本以外	生産	江蘇富天江電子電器有限公司	✓		✓	✓						✓
		上記以外	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	非生産		✓	✓								✓

■ 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」

環境省「環境会計ガイドライン 2005年版」

発行

株式会社富士通ゼネラル

編集責任者 環境統括部長 井原 俊哉

お問い合わせ

環境統括部環境計画部

〒213-8502 神奈川県川崎市高津区末長3丁目3番17号

TEL: 044-861-7768 FAX: 044-861-7772

目次 CONTENTS

- 1 編集方針
- 3 **TOP MESSAGE**
- 4 ■ 経営理念・環境方針
- 5 **第7期富士通ゼネラルグループ
環境行動計画**
- 7 **製品・サービスの取り組み**
 - 7 ■ 空調機事業・ホーム機器事業
 - 11 ■ 情報通信事業
 - 13 ■ 電子デバイス事業
- 15 **事業活動の取り組み**
 - 15 ■ マテリアルバランス
 - 16 ■ 温室効果ガス (GHG) 排出
 - 18 ■ 廃棄物・化学物質
 - 19 ■ 水・公害対策・生物多様性
 - 20 ■ リサイクル (製品・容器包装)
- 21 **環境マネジメント**
 - 21 ■ ガバナンス体制
 - 22 ■ 製品の環境アセスメント
 - 23 ■ 緊急事態
 - 24 ■ 環境監査・環境教育
 - 25 ■ 環境コミュニケーション
 - 26 ■ 社会活動・表彰
- 27 **データ集**
- 31 **事業所の紹介**
- 32 **グループ会社の紹介**
- 35 富士通ゼネラルグループ概要
- 36 アンケート
- 38 環境省「環境報告ガイドライン (2012年版)」対照表

〔表紙の写真〕

にかりょう
ニヶ領用水 (神奈川県川崎市)



ニヶ領用水は多摩川に沿って川崎市内を流れる農業用水で、支流も含めた全長は32 kmあります。1600年ごろから作られはじめ、江戸時代を通じて地域の農業を支える貴重な水源として役立ってきました。

近年の都市化により、農業以外の利用が増えるとともに、生活雑排水も流入したため、水質汚濁が進みました。しかし、下水道の整備や、水環境の再生を願う市民などの努力により、今では再び清らかな流れが戻ってきています。

また、川崎市の「生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～」(2014年3月策定)によれば、生物多様性を維持するための生物の移動空間である緑の回廊(コリドー)としての役割も期待されています。(本社より北西に約8 kmの多摩川に設けられた堰などから分水)

TOP MESSAGE

快適で安心できる社会に向けて

地球温暖化防止に向けて、2015年12月にパリで開催されたCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）では、京都議定書に参加していなかった米国・中国・インドといったCO₂排出量の大きい国も含めた196か国が自主目標を立て、その達成に取り組む「パリ協定」が採択されました。今後、世界的に省エネ規制、冷媒規制が加速・多様化し、空調機本体の省エネ追求は、さらに高いレベルになってくると予想されます。再生可能エネルギーの利用拡大はもとより、社会や人びとの暮らしを支えるためのあらゆるエネルギー消費行動の改善においても、低炭素社会に向けた技術イノベーションが求められています。

富士通ゼネラルの主力製品である空調機器は、オフィスや家庭でのエネルギー消費において大きな比重を占めているため、エネルギー効率のさらなる向上だけでなく、使用効率と快適性を高度にバランスさせる気流制御や自動運転などの技術を進化させ続けています。その一方で、冷暖房を社会でシェアする取り組みが官民の協力で実施されるなど、空調機ビジネスをとりまく社会環境も変わりつつあり、社会ニーズの変化を的確にとらえた製品やサービスを提供していくことが重要であると考えています。

また、近年では、地球温暖化の影響とも言われる大規模な自然災害が多発しており、甚大な被害をもたらしています。これらの災害の経験から、たとえば人命への危険が差し迫る前に適切な住民避難を呼びかけるなど、行政からの情報を住民一人ひとりに確実に伝達できる情報通信システムの構築が、消防や防災行政の新たな課題になってくると考えられます。

未来へのチャレンジ

このように地球環境問題と関わりながら事業活動を推進していくために、富士通ゼネラルグループでは、1993年から「環境行動計画」を策定し、環境活動を実践しています。現在の第7期（2013～2015年度）では、重点課題として『環境対応製品・技術の開発と市場への提供拡大』『温室効果ガス排出量の削減』『廃棄物・重点化学物質の排出抑制』『環境マネジメントシステムのレベルアップと運用効率改善』『生物多様性保全の具体的取組み』の5項目を掲げています。現在までは概ね計画通り進捗しており、最終目標の達成に向け活動を推進していきます。

富士通ゼネラルグループは、これからも総力をあげて持続可能な社会の実現に向けたチャレンジを続けていきます。



株式会社富士通ゼネラル
代表取締役社長
斎藤 悦郎

経営理念・環境方針

富士通ゼネラルは、富士通グループの一員として共通の経営理念を基盤としており、富士通株式会社の「FUJITSU Way」や「富士通グループ環境方針」を富士通ゼネラル向けにアレンジし、「FUJITSU GENERAL Way」並びに「富士通ゼネラルグループ環境方針」として制定しています。富士通ゼネラルグループ社員は、日々の活動において、これらの実践に努めています。

FUJITSU GENERAL Way

FUJITSU GENERAL Way は、一人ひとりが共有・実践すべき行動原則を示したものです。富士通ゼネラルグループは、共通の理念・指針の下に、快適で安心できる社会づくりへの貢献をめざします。

企業理念	富士通ゼネラルグループは、常に変革に挑戦し続け、快適で安心できる社会づくりに貢献し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供します	経営目標	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界に通じる事業の育成 ■ 世界の人々との共生 ■ 風通しの良い経営 																														
企業指針	<p>目指します</p> <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #f08080;">社会・環境</td> <td>社会に貢献し地球環境を守ります</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">利益と成長</td> <td>お客様、社員、株主の期待に応えます</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">株主・投資家</td> <td>企業価値を持続的に向上させます</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">グローバル</td> <td>常にグローバルな視点で考え判断します</td> </tr> </table> <p>大切にします</p> <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #f08080;">社員</td> <td>多様性を尊重し成長を支援します</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">お客様</td> <td>かけがえのないパートナーになります</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">お取引先</td> <td>共存共栄の関係を築きます</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">技術</td> <td>新たな価値を創造し続けます</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">品質</td> <td>お客様と社会の信頼を支えます</td> </tr> </table>	社会・環境	社会に貢献し地球環境を守ります	利益と成長	お客様、社員、株主の期待に応えます	株主・投資家	企業価値を持続的に向上させます	グローバル	常にグローバルな視点で考え判断します	社員	多様性を尊重し成長を支援します	お客様	かけがえのないパートナーになります	お取引先	共存共栄の関係を築きます	技術	新たな価値を創造し続けます	品質	お客様と社会の信頼を支えます	行動指針	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #f08080;">良き社会人</td> <td>常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">お客様起点</td> <td>お客様起点で考え、誠意をもって行動します</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">三現主義</td> <td>現場・現物・現実を直視して行動します</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">チャレンジ</td> <td>高い目標を掲げ、達成に向け粘り強く行動します</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">スピード</td> <td>目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f08080;">チームワーク</td> <td>組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します</td> </tr> </table>	良き社会人	常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します	お客様起点	お客様起点で考え、誠意をもって行動します	三現主義	現場・現物・現実を直視して行動します	チャレンジ	高い目標を掲げ、達成に向け粘り強く行動します	スピード	目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します	チームワーク	組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します
	社会・環境	社会に貢献し地球環境を守ります																															
利益と成長	お客様、社員、株主の期待に応えます																																
株主・投資家	企業価値を持続的に向上させます																																
グローバル	常にグローバルな視点で考え判断します																																
社員	多様性を尊重し成長を支援します																																
お客様	かけがえのないパートナーになります																																
お取引先	共存共栄の関係を築きます																																
技術	新たな価値を創造し続けます																																
品質	お客様と社会の信頼を支えます																																
良き社会人	常に社会・環境に目を向け、良き社会人として行動します																																
お客様起点	お客様起点で考え、誠意をもって行動します																																
三現主義	現場・現物・現実を直視して行動します																																
チャレンジ	高い目標を掲げ、達成に向け粘り強く行動します																																
スピード	目標に向かって、臨機応変かつ迅速に行動します																																
チームワーク	組織を超えて目的を共有し、一人ひとりが責任をもって行動します																																
		行動規範	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人権を尊重します ■ 法令を遵守します ■ 公正な商取引を行います ■ 知的財産を守り尊重します ■ 機密を保持します ■ 業務上の立場を私的に利用しません 																														

富士通ゼネラルグループ環境方針

富士通ゼネラルグループ環境方針は、富士通ゼネラルグループの環境経営理念・指針として 2003 年に制定しました。また、社会環境の変化を受けて、2012 年に改訂しています。

理念	<p>富士通ゼネラルグループは、地球環境保全への取り組みが重要な経営課題であると認識し、快適で安心できる社会づくりに貢献し、豊かで夢のある未来を世界中の人々の提供することで、社会の持続可能な発展に貢献します。</p> <p>また、事業活動にかかわる環境法や環境上の規範を遵守するとともに、自主的な地球環境保全活動に努めます。</p> <p>さらに、豊かな自然を次の世代に残すことができるよう、すべての組織と一人ひとりの行動により先行した取り組みを追求していきます。</p>	行動指針	<p>優れたテクノロジーを追求し、快適で安心安全な製品およびサービスを提供することにより、お客様や社会の環境負荷低減と環境効率の向上に貢献します。</p> <p>製品のライフサイクルのすべてにおいて環境負荷を低減します。</p> <p>省エネルギー、省資源および 3R（リデュース、リユース、リサイクル）を強化したトップランナー製品を創出します。</p> <p>化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防します。</p> <p>環境に関する事業活動、製品およびサービスについての情報を開示し、それに対するフィードバックにより自らを認識し、これを環境活動の改善に活かします。</p> <p>社員一人ひとりは、それぞれの業務や市民としての立場を通じて気候変動対策や生物多様性保全を始めとした地球環境保全に貢献し、更に広く社会へ普及啓発を図ります。</p>
----	--	------	--

第7期 富士通ゼネラルグループ 環境行動計画 (2013年度～2015年度)

富士通ゼネラルグループでは、「富士通ゼネラルグループ環境方針」を実践する具体的な計画として、環境行動計画を定めています。2013年度から2015年度までの、第7期環境行動計画では、深刻度を増す気候変動に対し、エアコンなどの省エネルギー化や環境負荷低減化の対策を加速させていく内容となっています。

社会への貢献

新規に開発する製品のグリーン製品100%化は完了しています。しかし、非認定の旧製品も一部の国・地域で販売が継続しており、転換が予定よりも遅れています。このため、グリーン製品の売上高は、2014年度計画の78.6%にとどまりました。また、より厳しい基準で審査するスーパーグリーン製品については、開発機種数の30%以上とする認定目標を継続して達成しています。

新技術では、エアコンでR-32冷媒への転換技術を確認したほか、業務用デジタル無線機（消防・防災）で高密度実装などにより小型化を実現しました。

自らの事業活動の改革

温室効果ガス、廃棄物

温室効果ガス（エネルギーCO₂）の削減や廃棄物の削減については、富士通ゼネラルグループ全体、および国や業態別の

各カテゴリーで、削減目標を達成しています。

一方、国内物流のCO₂排出量の削減では、排出総量は減少しましたが、販売台数による原単位管理では、2014年度の目標（2012年度比98%）に対し、1.6%のマイナスとなりました。

重点化学物質^(注1)

生産工程で使用する有機溶剤について代替化の検討を行っていますが、最適な物質の選定に時間がかかっており、作業の遅れが発生しています。引き続き代替物質の検討を進めてまいります。

グリーン調達

お取引先のEMS^(注2)、およびCMS^(注3)構築の支援は、作業が予定より遅れています。これは、海外の生産グループ会社におけるお取引先の管理システムに改善すべき部分があったことによるものです。現在、システムの見直しを行っています。

社会への貢献

目標項目（2015年度末までの目標）		2013年度実績	2014年度実績	進捗	関連
製品のライフサイクルを通じて地球環境への負荷を低減する環境対応製品・技術の開発と市場への提供拡大	新規開発する全製品をグリーン製品 ^(注4) とする	100%	100%		P.22
	2015年度末までに、グリーン製品売上高を2012年度比400%以上にする	192.7%	235.8%		P.22
	開発モデル数の比率で30%以上をスーパーグリーン製品 ^(注4) とする	80.8%	30.4%		P.22
	環境性能で業界トップレベルの技術を開発する ^(注5)	エアコンで開発完了	R-32冷媒転換技術 消防無線の省資源化		P.22

自らの事業活動の改革

目標項目(2015年度末までの目標)			2013年度実績	2014年度実績	進捗	関連
国内拠点、海外拠点、国内の製品物流における温室効果ガス排出量の削減	エネルギー消費 CO ₂ 排出量の削減	グローバルで 2015 年度末までに、2012 年度比売上高原単位で 95%以下にする	84.8%	73.6%	😊	P.16 P.27 P.28
		〔国内〕 2015 年度末までに、2012 年度比各地域の原単位で 95%以下にする	91.0%	92.1%	😊	P.16 P.27 P.28
		〔海外〕 2015 年度末までに、2012 年度比エネルギー原単位で 92%以下にする	94.6%	92.6%	😊	P.16 P.27 P.28
	国内物流における CO ₂ 排出量の削減	2015 年度末までに、2012 年度比販売台数原単位で 97%以下にする	108.1%	99.6%	😞	P.17 P.28
環境に配慮したもののづくりを推進し、廃棄物、重点化学物質の排出抑制	廃棄物排出量の削減	グローバルで 2015 年度末までに、2012 年度比売上高原単位で 80%以下にする	61.8%	58.2%	😊	P.18 P.29
		〔国内〕 2015 年度末までに、2012 年度比各地域の原単位で 76%以下にする	75.5%	74.7%	😊	P.18 P.29
		〔海外〕 2015 年度末までに、2012 年度比生産高原単位で 90%以下にする	70.5%	79.6%	😊	P.18 P.29
	重点化学物質の削減	生産時に使用する重点化学物質の排出量を削減する	対象物質を特定	2012 年度比 20.2%	😞	P.18 P.30
国内・海外全拠点における環境マネジメントシステム(EMS)のレベルアップと運用効率改善	2015 年度末までに、全社の環境推進体制の改善、効率向上を図る	負のコスト(業務上発生するムダ)を CO ₂ 換算し指標化	評価対象範囲決定 データ構築 CO ₂ 換算の試算実施	換算式設定 運用ルール設定	😊	P.15
	海外全部材調達先での EMS を構築、レベルアップを図る…EMS 構築お取引先 80%以上		84%	72%	😞	P.22
	調達先の化学物質管理体制(CMS)の強化を図る…化学物質管理体制構築お取引先 80%以上		81%	74.9%	😞	P.25
生物多様性保全の具体的取り組み	ビオトープを通じた生物多様性保全の活動に取り組む		モニタリング実施 保全策継続実施	モニタリング継続実施 保全策継続実施	😊	P.19
	事業所および調達先に対し、生物多様性保全の取り組みを推進する		施策内容の設定	施策内容の継続実施	😊	P.19

進捗：2014 年度末までの計画に対する進捗状況



… 計画どおり進捗している



… 計画に対して遅れが発生している

(注1) 重点化学物質：富士通ゼネラルグループが、有害性と使用量を評価した結果、削減に取り組み化学物質として特定した「キシレン」「トルエン」「酢酸 2-エトキシエチル」の3物質。
(注2) EMS：環境マネジメントシステム (Environmental Management System) の略。
(注3) CMS：化学物質管理システム (Chemical Management System) の略。
(注4) グリーン製品 / スーパーグリーン製品：富士通ゼネラルが環境に配慮した製品として独自に認定した製品。 → P.22
(注5) 事業環境の変化により、項目の区分を見直しています。

製品・サービスの取り組み

空調機事業・ホーム機器事業 Air Conditioners / Household Appliances



環境性能を向上した最良の製品づくり

取締役 経営執行役専務 空調機商品開発本部長
川島 秀司



近年、先進国のみならず世界各国・地域において環境規制の強化や節電意識の高まりが進展・浸透しつつある中で、家庭用・業務用とも更なる性能・機能の向上が求められています。

また、昨今の異常気象がもたらす猛暑・厳冬によって、「室内空間の快適性」とともに熱中症やヒートショック現象の予防など、健康・衛生面でもエアコンが必要とされてきています。

私たち空調機部門は、省エネ性能の追求や地球温暖化係数の低い新冷媒の採用など、優れたテクノロジーの開発を通じて、環境に配慮した空調機関連製

品を世界のお客様にご提供することで、室内空間の快適性を向上させ、人びとの暮らしを豊かにしつつ、地球環境への負荷を限りなく少なくすることを目指しております。

一方で、新興国などの経済発展に伴い、大気汚染の拡大が懸念されておりますが、PM2.5 対応の空気清浄機や同空気清浄機能を搭載したルームエアコンなど、汚染物質からお客様の健康を守る技術の開発にも力を入れております。

富士通ゼネラルは、空調機・ホーム機器製品において、今後も将来を見据えた技術の追求により、限りなく「環境性能を向上した最良の製品づくり」に取り組んでまいります。

追加型ビル用マルチエアコン「AIRSTAGE®」

～VⅢシリーズ～

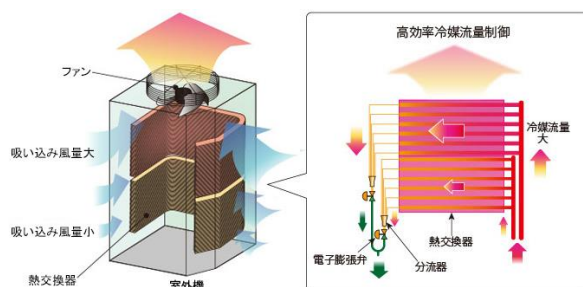


室外機 8/10 馬力 (左) 12/14/16/18 馬力 (右)

独自の技術により高い省エネルギー性能と高効率運転を実現しました。特に 8 馬力機種では省エネルギー効率で欧州における業界トップクラスの COP4.84 (暖房時) を達成しました。

「コーナーラウンド型高密度マルチパス熱交換器」と「上下個別冷媒制御」で高効率化を実現

熱交換効率の良い「コーナーラウンド型高密度マルチパス熱交換器」(Φ7mm の細径銅管、コーナーラウンド形状) に加え、熱交換器を上下に分割し、流れる冷媒の量を、熱交換器に吸い込まれる風量に合わせて適切に制御する独自の運転機能を搭載しました。これにより、熱交換器の性能を最大限に引き出し、運転の高効率化を実現しました。



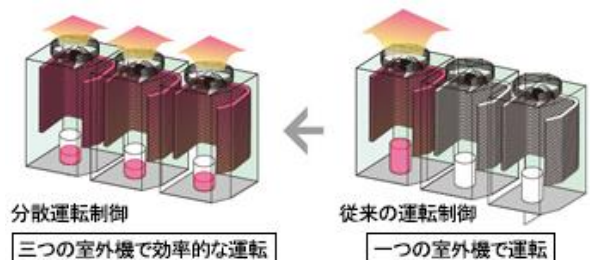
大容量 (16 馬力) DC ツインロータリー圧縮機

回転ロスの少ない正弦波駆動方式の DC インバーター制御と新開発の 16 馬力 DC ツインロータリー圧縮機により、圧縮機を 1 台に集約でき、冷媒回路の高効率化を実現しました。また、従来の 2 台の圧縮機を連結した場合の能力ロスも低減しました。

分散運転制御

室内機からの要求能力に応じて、各室外機の熱交換器をフルに活用した「分散運転制御」を行うことで、熱交換効率が大幅に向上しました。

またこれにより、圧縮機にも最大負荷をかけずに、最も効率の良い安定した運転を持続できます。また、一つの室外機に運転が集中しないので機器の信頼性も向上しました。



きめ細かい管理を実現するコントローラー

あらかじめ設定できる室内温度の範囲を制限して、冷やしすぎや温めすぎを防止する機能を搭載しました。また、ムダな運転を防止する「消し忘れ防止タイマー」は、タイマーが動作する時刻を自由に設定できます。一例として「就業時間は継続運転、残業時間は運転開始から一定時間で自動的に運転 OFF」など、きめの細かい管理ができ、運転の効率化に寄与します。



中国向けエネルギーラベル 1 級取得

中国における空調機器に対するラベリング制度は、最高ランクを 1 級とし、5 級までランク付けがされています。V-Ⅲシリーズは、そのなかでもエネルギーラベル 1 級を達成しました。

加湿空気清浄機



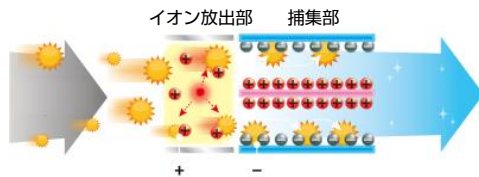
3色のカラーバリエーションを持つ中国モデル「ACSQ360D」

集じんユニットと自動再生脱臭ユニットを備えた富士通ゼネラル独自の「PUREVER ENGINE[®]」(ピュアエパーエンジン)を開発し、これを搭載した加湿空気清浄機を、中国と日本で発売しました。



電気集じん方式

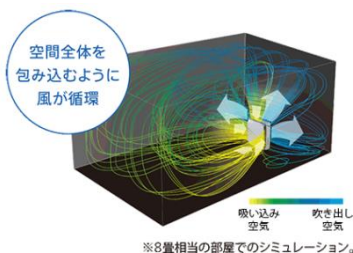
微粒子を強制的にプラスに帯電させ、捕集部の電極板で強力に吸着します。電極板の隙間が広いので、目づまりによる運転効率の低下が抑えられます。また、フィルター交換が不要で、省資源にもつながります。



独自の「4×3 気流」(フォーバイスリー気流)

前面4方向吸引で居住空間の空気を足元まで効率的に吸い込み、3方向放出で部屋全体を包み込むように循環させます。

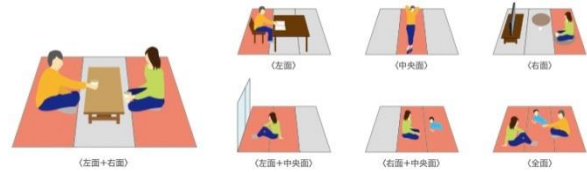
広いリビングルームの空気の汚れやニオイを静かに素早く集じん・脱臭でき、省エネルギーに寄与します。



電気カーペット

暖房面積切り換え機能

さまざまな生活シーンに合わせて暖房面積を選択でき、人がいる場所だけを効率的に暖められるので、ムダな電力の消費が抑えられます。



低電力運転機能

余熱の温かさを利用して1/3面ずつ交替で暖房面積を切り換えて運転することで、少ない電力で快適さが長続きます。

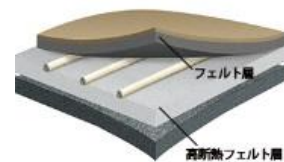
センサーによる室温の自動調節機能

他の暖房機と併用した場合の室温上昇をセンサーが感知し、室温が約20℃以上になると、本体の表面温度を設定温度よりも低めに自動調節する「ひかえめモード」機能により、暖めすぎを防止し、省エネルギーに寄与します。



高断熱構造

床面への放熱を抑制する高断熱フェルト層により、節電をサポートします。



自動的に電源を切る「切タイマー」機能

運転開始後に一定時間が経過すると自動的に電源を切る「切タイマー」機能を搭載し、切り忘れを防止するとともに人のいない間のムダな電気の消費を抑制します。

情報通信事業

Information & Communication Systems



安全で安心できる社会づくりに尽力

取締役 経営執行役常務 システムサポート統括部長
渡部 信之



情報通信システム部門は、消防・防災などの公共システムや、医療機関、外食産業、農業分野などのシステムソリューションで、社会に貢献しています。

消防・防災分野で、近年、気候変動がもたらす極端気象の増加、また南海トラフを震源とする巨大地震などが懸念されており、水害、土砂災害、震災などへの迅速な対応や防災への取り組みが重要度を増しています。私たちは、消防・防災のシステム提案により、市民の安心・安全を支える社会基盤の強化をめざしていきます。

また、少子高齢化が進行する社会において、医療

現場における負担の増加は無視できないものになっています。私たちは、患者様はもとより、医療スタッフ様にもやさしい医療環境づくりを、医療向け外来情報ソリューション「Hospision®」(ホスピジョン)などのご提案により推進しています。

さらに、その他のソリューションビジネスにおいても、映像伝達など情報伝送機能を高度化させるとともに最新のクラウド技術などを使い、それぞれのお客様のニーズに沿ったソリューションをご提供したいと考えています。

市町村防災行政無線システム

<納入事例> 石巻市様

旧・石巻市と隣接する6町が合併し 2005 年に誕生した石巻市様は、“災害に強く安心して暮らせるまちの実現”に向けた東日本大震災からの復興事業の一環として市内全域を対象とした防災行政無線整備事業を進めており、そのシステム構築に富士通ゼネラルの最新式デジタル防災行政無線システムが採用されました。

2014 年 4 月には市内6か所の総合支所との無線回線によるネットワーク化が完了しました。これにより、旧市町ごとの運用が統合され、緊急時における市内全域への避難指示・勧告、市役所と各総合支所間での情報収集など、今まで以上に災害支援活動での迅速、適格な対応が行えるようになりました。石巻市様では今後も難聴地域を解消するため、屋外子局の増設などを計画しています。

市役所内の防災無線室



市内の屋外子局



石巻市様のシステム概要図



外来患者案内システム「NAVIT[®]」

<納入事例> 愛知医科大学病院様

愛知医科大学病院様（許可病床数 900 床）は、創立 40 周年の記念事業として



“PlusUltra（プルスウルトラ）創造する未来へ”をスローガンに新病院を建設し、2014 年 5 月から診療をスタートしました。

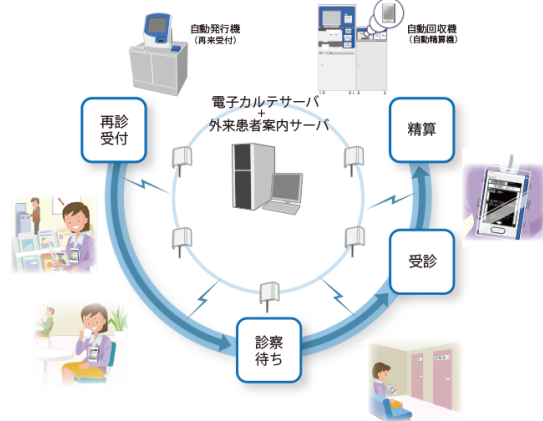
「NAVIT」は患者様が病院内で利用する軽量コンパクトな携帯端末で、無線通信により富士通株式会社が提供する電子カルテシステムと連携しており、当日の診察・検査予定表、受診待ちの状況や会計完了通知などがリアルタイムで通知・表示されます。

このシステムの導入により、患者様は手元で待ち時間などが把握できるので、不安感や疲労感が軽減されるとともに時間を有効にお使いいただけるようになりました。また、待ち時間の問い合わせが少なくなるなど、病院業務の効率化にも役立っています。

NAVIT 端末



システムのイメージ



電子デバイス事業

Electronic Devices



最高の品質でお客様の期待に応える

取締役 経営執行役常務 電子デバイス事業部長
海老澤 久寿



昨今の自動車産業においては、ドライバーの運転支援機能の充実や将来の自動運転化に向けた技術開発が盛んに行われており、この分野における技術革新のスピードは、今後より一層加速していくことが予想されます。

私たちは、画像処理技術の高度化に加え、検知機能などドライバーの運転を支援する機能を付加した車載カメラの開発に取り組み、カメラ本体での物体認識処理を実現した「リア・クロス・トラフィック・アラート（RCTA）システム」を世界で初めて開発しました。

また、電子部品やユニットの製造においては、小型・高集積化技術や、高出力・高効率化技術といったコア技術を活かして、燃料電池やデジタルタコグラフなどの環境および車載関連分野でのビジネスを積極的に展開しています。

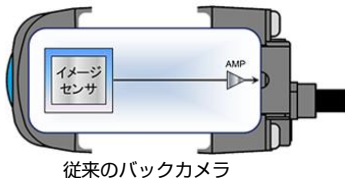
これからも、小型化や高放熱設計などの環境負荷低減に有効な技術を磨きあげ、競争力を一段高めた最高品質の商品を通じて、お客様のご期待に応えてまいります。

リア・クロス・トラフィック・アラート(RCTA)システム

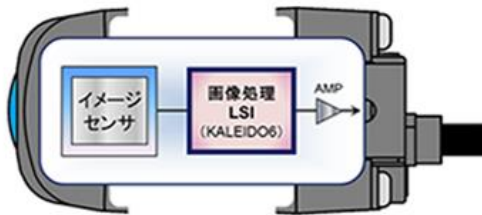
自車両に接近するほかの車両や歩行者など、車両の周辺の危険要因となる物体を検知する駐車支援バックカメラシステムを開発しました。このシステムは、物体検知の機能を特定用途向け集積回路に搭載したうえでカメラに内蔵したため、カメラ本体での認識処理が世界で初めて可能となりました。このシステムにより、車両装着性の向上とコストの低減を実現しています。



集積回路



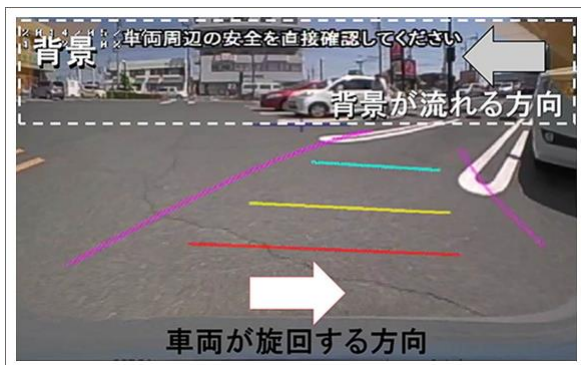
従来のバックカメラ



画像処理内蔵バックカメラ

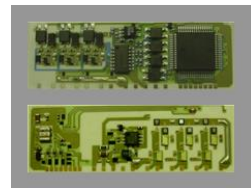
画像処理情報と車両情報の併用化

例えばハンドルを切りながら後退するような場合、ほかの駐車車両など、本来は静止物であるはずの物体が画像処理上では接近物として感知されてしまいます。このため、車両情報(車速、ハンドルの舵角など)を活用して解析することで、静止物の誤検知を低減しました。



電子部品

産業機器向けを中心に、高出力かつ高効率を実現する各種モータードライバーやインバーターなどの設計と製造を行うとともに、それら製品の小型化と高集積化に取り組んでいます。また、さまざまなパワー回路のモジュール化も行っています。



圧膜製品



産業ロボット用電源



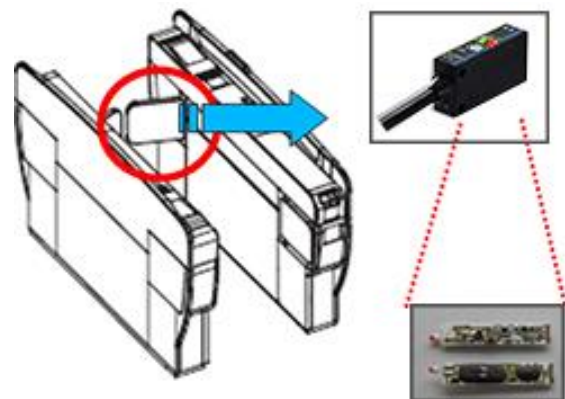
燃料電池用インバーター

ユニット設計・生産受託

産業機器・医療機器・住宅設備向けなど、さまざまな電気機器に組み込まれるプリント基板の設計・製造を受託しています。また、筐体設計やケーブル配線設計など、完成品までの設計・製造も行っています。

<活用例>

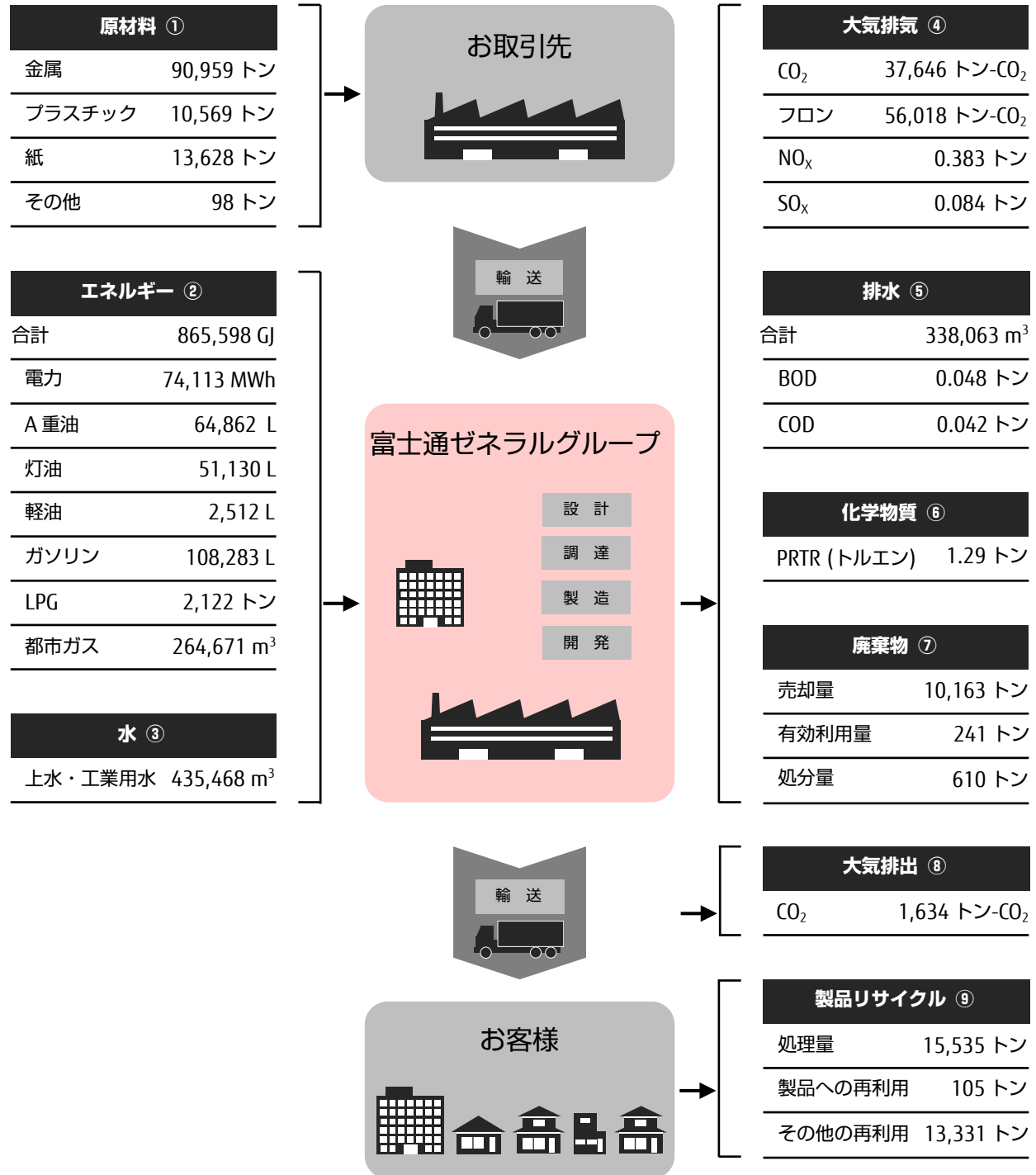
自動改札機の光センサー



事業活動の取り組み

マテリアルバランス

2014 年度実績



- 【注記】
- ・本表に、日本以外の非生産グループ会社のデータは含みません。
 - ・②、④の「CO₂」を除き、江蘇富天江電子电器有限公司のデータは含みません。
 - ・本表の以下の部分は、日本国内のみのデータです。
 - ④のうち「NO_x」「SO_x」、⑤のうち「BOD」「COD」、⑥、⑧、⑨

温室効果ガス (GHG) 排出

事業所などのエネルギーCO₂削減の取り組み

LED 照明導入と灯数削減による消費電力の削減

FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD. では、生産工程の照明本体を水銀灯や蛍光灯から広角タイプの LED に変更し、照明器具の消費電力と灯数をとともに削減し、照明に使用する電力の 70%にあたる年間約 686MWh を削減しました。

FUJITSU GENERAL (THAILAND) の構内照明の LED 化



高効率変圧器の導入による消費電力の削減

本社では、開発試験設備の増強により消費電力の増加が見込まれたことから、変電設備を見直し高効率変圧器を導入することで、消費電力を年間約 11MWh 削減しました。



本社に導入された高効率変圧器

生産工程などの見直しによる使用燃料の削減

青森事業所では、工程作業の内容を月単位で集約し定期的に切り換えることで、設備の運用効率を向上させました。その結果、熱源として燃焼させる LPG の消費量を年間約 3.7 トン削減しました。

また、作業工程の集約化を進めた結果、特に冬の夜間操業における暖房の運用効率が向上し、灯油の使用量を年間約 1.7kl 削減しました。

プリント板実装工程の効率改善による節電

株式会社富士通ゼネラルエレクトロニクスでは、SMT^(注1)方式による生産設備において、基板に実装するマウンターと、実装後に加熱して基板上的のはんだを結合させるリフロー炉の省エネルギー化を行いました。また、実装部品を供給するカセットを整備し、生産切り替え時の設備停止時間を短縮する取り組みを行いました。これにより、消費電力を年間約 53MWh 削減しました。

富士通ゼネラルエレクトロニクスで更新された生産設備



マウンター

リフロー炉

ボイラー燃料の転換と燃焼効率の改善

富士通将軍 (上海) 有限公司では、軽油を燃料とするボイラーを使用していましたが、ボイラー設備を更新するにあたり、環境負荷がより低い LPG を燃料とするボイラーに切り替えることでエネルギー効率の改善をはかった結果、年間約 7,500Gj (熱量換算) の消費エネルギーを削減しました。

富士通将軍 (上海) に導入された LPG ボイラー



軽油使用の旧式

LPG 使用の新式

(注 1) SMT: 表面実装技術 (Surface Mount Technology)。あらかじめはんだを印刷した基板面に電子部品を実装し、その後リフロー炉ではんだを溶かして電子部品と接着させる方法。

冷媒フロンへの取り扱いに関する取り組み

フロン取り扱い作業者の技能向上

富士通ゼネラルグループでは、冷媒フロンへの充てん・回収作業に従事する社員や製品を取り扱っている代理店様などに対して定期的に技術研修を行い、フロン漏えいのリスク認識と確実な作業のための技量維持・向上につとめています。



本社のサービス社員向け
フロン取扱い研修

エアコン生産工程でのフロン漏えい防止対策

現在、富士通ゼネラルのエアコンは、富士通将軍（上海）有限公司、富士通将軍中央空調（無錫）有限公司、FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD.の3つのグループ会社で生産しており、これら3社は生産工程で冷媒用フロンガスを取り扱っています。

このため各社では、冷媒用フロンガスの購入量と製品充てん量の差を把握することで漏えいの低減に努めています。特に、充てんノズル内にわずかに残留したフロンガスを回収できる充てん機を導入したほか、技術スタッフによるフロンガス関連の生産設備の日常点検などの取り組みを行っています。



富士通将軍（上海）の
冷媒回収装置

リサイクルプラントでのフロン漏えい防止対策

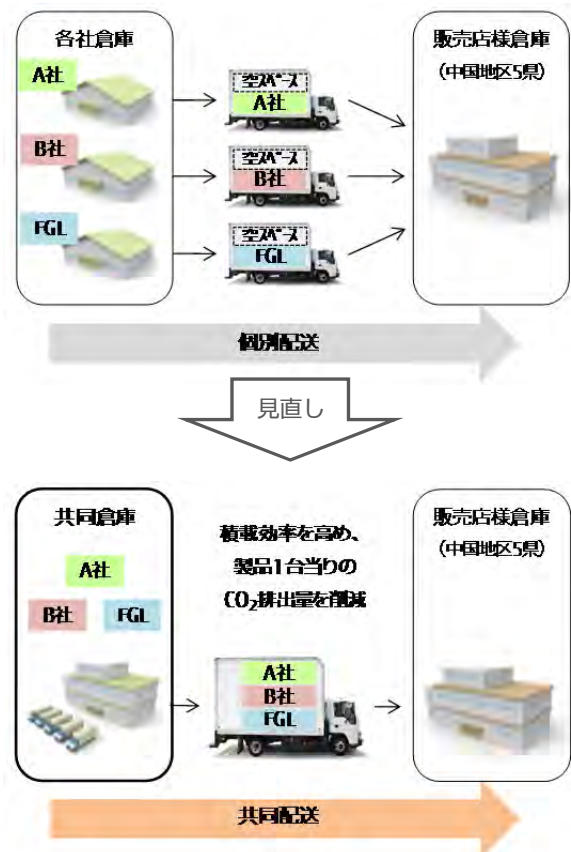
家電リサイクルを行う株式会社富士エコサイクルでは、使用済み製品内の冷媒用フロンガスを回収したポンペを専用の台ばかりの上で一時的に保管・管理しており、回収後のポンペにわずかな重量変化が起こっても自動通報機能によりスタッフが対応できる体制を構築しています。

物流による温室効果ガス排出の抑制

日本における共同配送の取り組み

日本国内の商品物流では、他社との共同配送による輸送効率改善や、販売計画の精度を高めて倉庫間の製品移動を削減するなどの改善に努めています。

共同配送については、2013年度までに九州地区で切り替えを完了しており、2014年度は中国地区まで対象地域を拡大しました。また、共同配送の実施にあたり、広島県に拠点となる流通倉庫を新たに設け、配送ルート最適化も併せて実施しました。



廃棄物・化学物質

廃棄物削減の取り組み

廃液を油と水に分離し削減

FGA (THAILAND) CO., LTD.では、設備で使用する冷却水の廃液削減に取り組んでいます。この冷却水には油分が含まれるため従来は廃棄処分されていましたが、2014年度に、工程内に油水分離装置を導入して冷却水の廃液から油分だけ分離回収・廃棄することが可能となりました。このため、廃棄物（廃液）の量を年間約1.5トン削減できました。

現在は、回収した油の有効利用に向け検討を行っています。



FGA (THAILAND) の油水分離装置

廃棄物の徹底した分別

各国・地域のグループ会社で廃棄物の徹底した分別を実践しており、水銀による環境汚染が懸念される使用済み蛍光灯なども適切に廃棄しています。



富士通將軍（上海）の廃蛍光灯などの置き場

納品時の梱包材などの再利用

富士通將軍中央空調（無錫）有限公司では、生産資材の納品時に発生する包装材（紙）や木製パレットを納入業者と協力して再利用する取り組みを行っており、年間の再利用量は約5トンになっています。

また青森事業所では、年間4.7トンになる部品納入時の木製パレットを暖房用の燃料として譲渡することで有効活用しています。

化学物質対策の取り組み

現在、エアコンなどに使用するモーターは、青森事業所と、グループ会社の江蘇富天江電子電器有限公司、および FGA (THAILAND) CO., LTD.で生産しています。モーターの生産工程ではキシレンやトルエンなどの有機溶剤を使用しており、これら有機溶剤の含有率が低い薬品への代替化に取り組んでいます。

また、汚染防止や労働衛生のために、使用する化学物質の管理には特に配慮しています。たとえば、富士通將軍（上海）有限公司では、使用する化学物質のすべての SDS^(注1)を壁面に掲示することで社員の誰もが使用する化学物質の特性などを容易に確認できるよう工夫しており、化学物質の安全性や危険性に関する意識の向上をはかっています。



富士通將軍（上海）の SDS 掲示[上]とチェックリスト[右]の運用



(注1) SDS：安全データシート（Safety Data Sheet）の略。日本ではMSDSと称されていた。

水・公害対策・生物多様性

水資源

本社の研究所棟は建設から28年が経過し、洗面所の水洗設備が古くなったため、センサー感知式に一斉更新しました。これにより研究所棟の洗面所の水使用量は約51%の削減となり、年間100m³（推計値）を節水できました。これは、大型タンクローリー車5台分に相当します。

また、多くの作業員が働く生産グループ会社などでは、作業員の節水意識を常に保つよう、教育やポスター掲示などで節水を呼び掛けています。



本社の改修した水栓



富士通将軍（上海）の節水ポスター

騒音・振動

生産およびリサイクルのグループ会社の騒音・振動レベルは、いずれも規制値を大幅に下回っています。また、2014年度に、騒音・振動の増加要因となる設備機器の導入はありませんでした。

地下水浄化

青森事業所では、1999年（当時は株式会社青森富士通ゼネラル）に実施した土壌・地下水検査において地下水から法定基準を超える有機溶剤を検出したため、地下水の浄化設備を設置し浄化と経過測定を行っています。

2014年度は、4か所の観測用井戸のうち3か所は測定下限値未満でしたが、1か所でトリクロロエチレンとテトラクロロエチレンが検出されました。なお、処理後はいずれも測定下限値未満となっています。



地下水浄化装置（青森事業所）

（単位：mg/L）

検出化学物質	測定値	基準値（注1）
トリクロロエチレン	0.006	0.03以下
テトラクロロエチレン	0.021	0.01以下

（注1）地下水の水質汚濁に係わる環境基準（平成9年環告第10号）
（改定：平成26年環告第127号）

生物多様性

富士通ゼネラルグループでは、事業所が周囲の生態系に及ぼす影響に配慮して、建屋を更新する際には緑地面積の拡大や貯水設備の整備などを行っています。

青森事業所

青森事業所は、周囲に雑木林が点在するなど、生態系の豊かなエリアと接しています。このため、事業所周辺の町道部分の緑地を整備することで、生活の利便性を確保しつつ生態系が維持されるよう配慮しています。



青森事業所周辺の緑地整備

FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD.

工業団地内の樹木は街路樹と構内緑地などに限られているため、生物の生息環境を広げるとともに社員の憩いの場としても活用できるように、構内緑地に植樹を行っています。



FUJITSU GENERAL (THAILAND) の植樹

本社

都市化が進んだ本社周辺では、緑地の重要性が再認識されています。本社では、1986年に倉庫の跡地（現・研究所棟）に、また2007年に冷蔵庫工場の跡地（現・空調技術棟）に緑地を整備しています。冷蔵庫工場跡の緑地は整備後7年が経過し、木々が豊かに成長しています。これらの緑地は、地域の生物の移動経路である緑の回廊（コリドー）の形成に寄与しています。

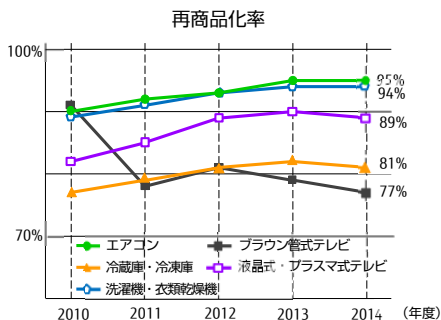
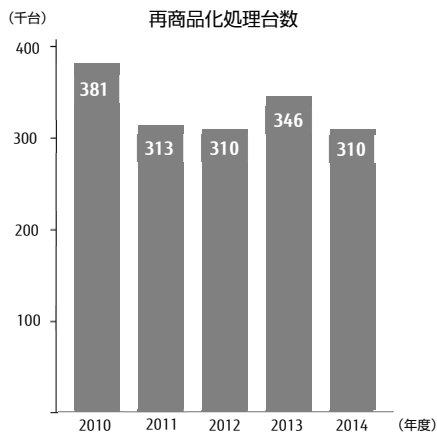
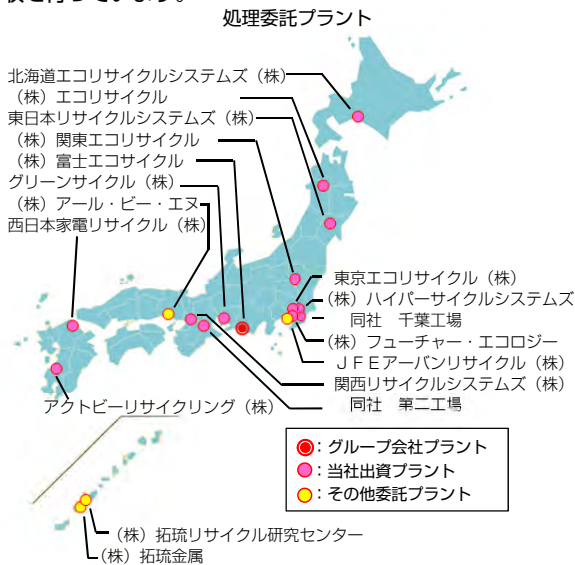


本社の緑地（冷蔵庫工場跡地）

リサイクル（製品・容器包装）

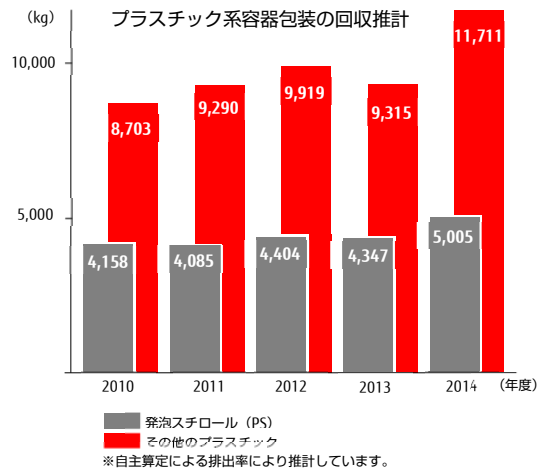
家電リサイクル（日本国内）

富士通ゼネラルは、他の家電メーカーと共同で日本国内に約 360 か所の指定引取場所を設置し、使用済みの自社製品（エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機）を引き取っています。これらの使用済み製品は、全国 18 か所のリサイクルプラントに委託して、再資源化やフロン回収を行っています。



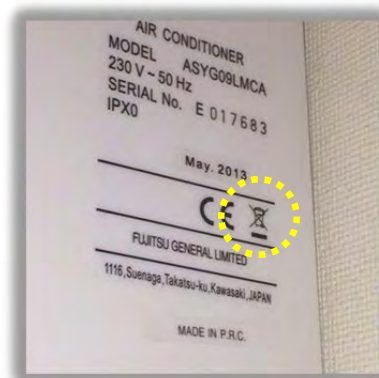
容器包装リサイクル（日本国内）

日本国内で販売される製品のうち、段ボールを除く容器包装は、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会を通じてリサイクルしています。2014 年度のプラスチック容器包装の推計回収量は、16,716 kgとなっています。富士通ゼネラルでは、今後も製品の容器包装の節減に努めていきます。



日本以外の製品リサイクル

世界各地の国と地域で、製品リサイクルの法整備と枠組みづくりが進められています。富士通ゼネラルは、輸出国・地域それぞれのリサイクル制度に適合した取り組みを行っています。



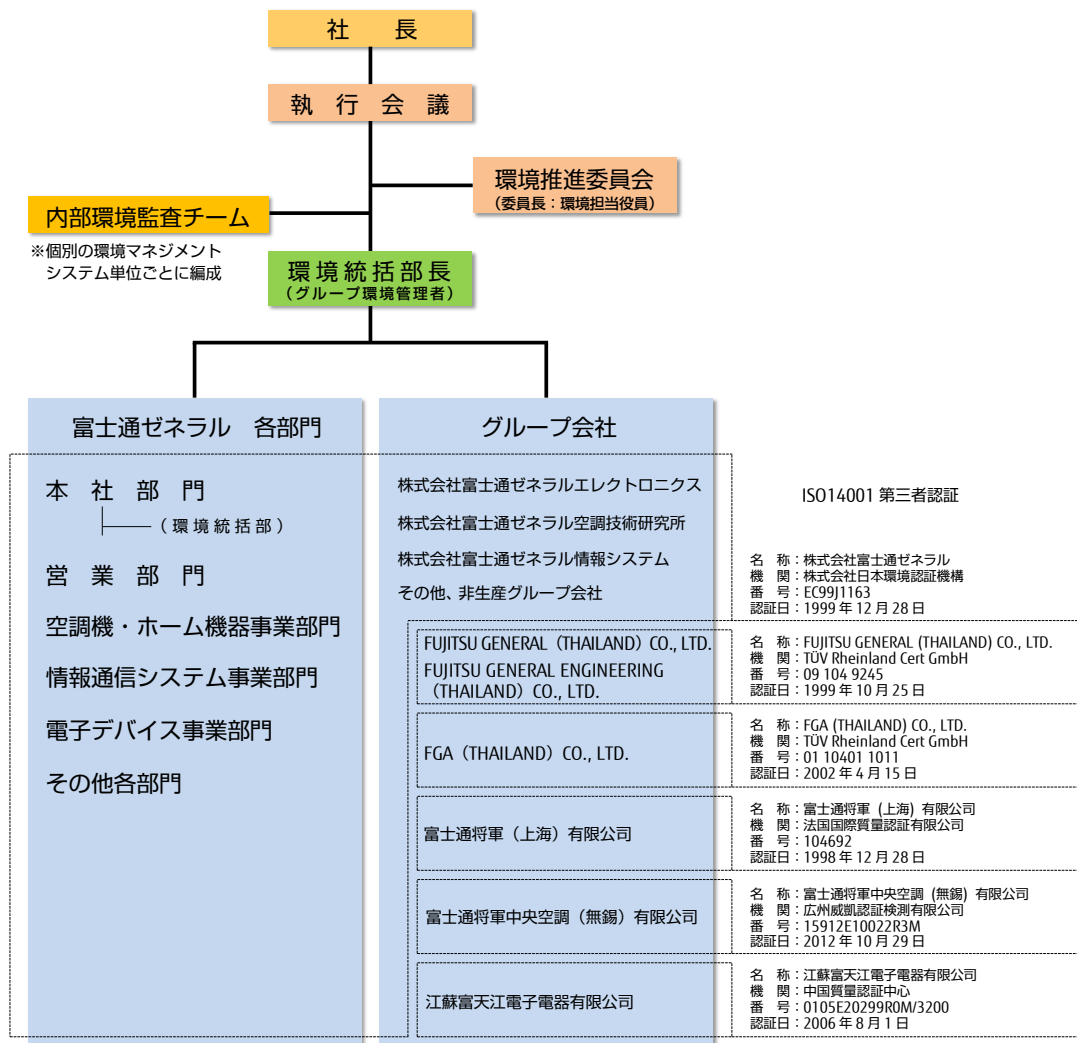
EU の「WEEE 指令」に基づくマークの表示 (EU 域内向け製品)

環境マネジメント

ガバナンス体制

環境経営の枠組み

富士通ゼネラルグループは、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを環境経営の基盤としています。グループ内では、日本国内および海外販売グループ会社が、第三者認証の統合認証を取得しています。一方、海外の生産グループ会社は、各社（工場）単位を基本として第三者認証を取得しています。さらに、富士通ゼネラルグループの環境推進委員会を設置することにより、それら個別の環境マネジメントシステムを統合しています。



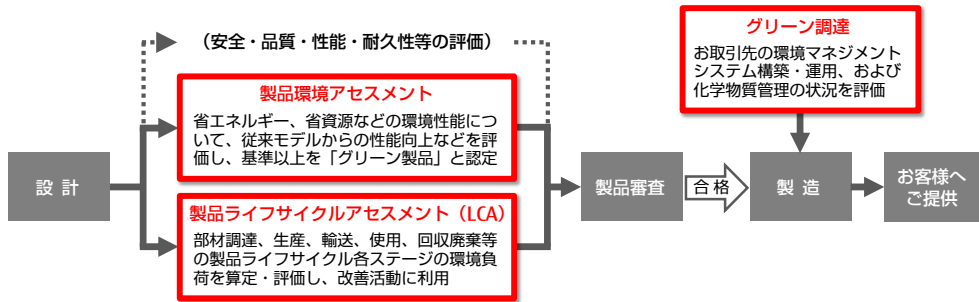
環境活動の沿革

- 1978年 公害防止委員会設置
- 1986年 本社の倉庫跡に緑地庭園を整備
- 1991年 環境保護推進委員会（現・環境推進委員会）設置
- 1993年 「富士通ゼネラル環境憲章」を制定
環境行動計画を策定し運用を開始
- 1995年 製品環境アセスメントの運用を開始
- 1998年 ISO14001の第三者認証取得を開始
家電リサイクルへの対応を開始
- 1999年 「環境報告書」を発行
- 2000年 環境統括部を発定
家電リサイクルプラントの運営会社を合併により設立
「環境会計」の運用を開始
- 2003年 「富士通ゼネラルグループ環境方針」を制定
- 2012年 「富士通ゼネラルグループ生物多様性行動指針」を制定
浜松事業所に緑地庭園（ビオトープ）を整備
- 2013年 グループ全事業領域でISO14001の第三者認証を取得

製品の環境アセスメント

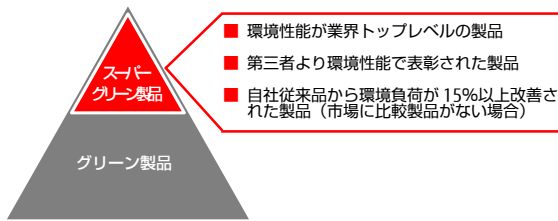
製品についてのさまざまな環境アセスメント制度

製品の環境に及ぼす影響並びにリスクは、富士通ゼネラルグループのさまざまな業務プロセスに関係するため、バリューチェーン全体を網羅するアセスメントを行っています。



製品環境アセスメントの基準と評価

アセスメントの総合評点が基準点 (80 点) 以上、かつ全ての評価項目で最低評価がない製品を「グリーン製品」としています。また、その中でトップレベルの環境性能を有する製品を「スーパーグリーン製品」として認定しています。



製品ライフサイクルアセスメント (LCA)

製品ライフサイクルでの環境負荷を富士通ゼネラル独自の自動算出システムにより設計時に評価することで、各ステージの環境負荷低減に取り組んでいます。

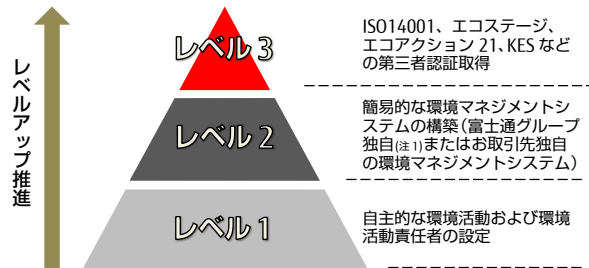
製品ライフサイクルにおける環境負荷の算定例
(エアコン「nocria®」Zシリーズ 冷房能力 7.1kW タイプ)

AS-Z71V2W (2009 年モデル)		重量 6.5kg 増	AS-Z71D2W (2014 年モデル)
各ステージ	環境負荷の増減	CO ₂ 排出量換算	
部材調達	増加	38.1kg	
製造工程	減少	-2.3kg	
輸送	減少	-0.2kg	
ご使用前 合計	増加	35.6kg	
ご使用中	減少	-2,808.0kg	
廃棄品回収	増加	0.1kg	
処分・リサイクル	増加	1.1kg	
ご使用后 合計	増加	1.2kg	
ライフサイクル全体		-2,771.2kg	

グリーン調達

部材の製造・ソフトの製作過程の環境管理

富士通グループ全体で、お取引先における環境マネジメントシステムの構築をお願いしています。お取引先の環境マネジメントシステムは構築レベルで区分しており、そのうちレベル 1 のお取引先に対して環境マネジメントシステムの構築・運用を支援しています。



部材含有化学物質の管理

富士通ゼネラルグループでは、JAMP^(注2)が提供している AIS^(注3) / MSDSplus^(注4) による含有化学物質の調査をお取引先に行うとともに、JAMP の「製品含有化学物質ガイドライン」に基づく CMS^(注5) の構築をお取引先をお願いしています。

お取引先の CMS については、富士通ゼネラルグループの監査員がお取引先を訪問して構築および運用状況を確認し、必要に応じてレベルアップを支援しています。

(注1) 富士通グループ独自：富士通グループ環境マネジメントシステム (FJEMS)。ISO14001 の要求事項を絞り込み、PDCA に沿った環境保全活動が根付くことを主眼として富士通グループが独自に提供する環境マネジメントシステム。
(注2) JAMP：アーティクルマネジメント推進協議会 (Joint Article Management Promotion Consortium) の略。
(注3) AIS：成形品に含まれる化学物質伝達シート (Article Information Sheet) の略。
(注4) MSDSplus：化学物質・調剤に含まれる化学物質伝達シート (Material Safety Data Sheet Plus) の略。
(注5) CMS：化学物質管理システム (Chemical substances Management System) の略。

緊急事態

緊急対応訓練

火災・防災対応

富士通ゼネラルグループでは、グループ各社において火災についての環境汚染リスクを検証し、定期的に訓練を実施しています。なかでも、空調機などを生産するグループ会社では、プラスチック部材を多く保管するほか、火災の燃焼による有害ガスの発生も懸念されることから、各工場所在地の消防機関とも連携し、避難や救護および初期消火について、経験を重視した実地訓練を行っています。

富士通将軍 (上海)



FGA (THAILAND)



富士通将軍中央空調 (無錫)



石油類の漏えい対策

ボイラー燃料や災害時の発電用などで重油などの石油類を貯蔵している事業所やグループ会社では、漏えい事故を想定し、定期的に事故対応訓練を実施しています。

FGA (THAILAND)



化学物質の汚染防止

化学物質による汚染を防止するため、漏えい時の拡散を防止する手順を定期的に確認しています。

また、過去に工場建屋で使用していたポリ塩化ビフェニル使用機器や、回収した製品に使用していたポリ塩化ビフェニル含有部品は、破壊処理が実施されるまでの間、本社の専用保管庫で適切に保管しています。

本社のシンナー漏えい
事故対応訓練本社のポリ塩化ビフェニル
保管倉庫内

大規模災害対応

浜松事業所は、近い将来予想される南海トラフ巨大地震の震源域（想定最大震度7）にあり、見学者などの来客者も多く、被災時の対応が重要な課題になっています。このため、事業所内で働くすべての人の参加による、大規模災害の発生を意識した訓練を行っています。

浜松事業所の災害時避難および救護訓練



環境監査・環境教育

環境監査

内部環境監査

経営トップによる環境経営リスクの評価管理を目的に、ISO14001の第三者認証範囲（グループ統合認証、および5つの個別認証）ごとに内部環境監査を構築し実施しています。また、グループ統合認証範囲に含まれる製造事業所（1か所）、製造グループ会社（1社）、リサイクルグループ会社（1社）では、それぞれが個別の内部環境監査体制を構築しており、事業所・グループ会社ごとの内部環境監査も実施しています。

また、質の高い監査を実施するため、監査員教育などを通じて、内部環境監査員の技量の維持・向上に努めています。

2014年度 内部環境監査の結果

区分	指摘・改善件数
環境法令等の逸脱リスクに関する不適合	5
その他の環境リスクに関する不適合	34
改善実施の推奨	71

江蘇富天江電子电器有限公司、および海外販売グループ会社は件数に含みません



富士通將軍（上海）の内部環境監査員スキルアップ研修

外部環境監査

ISO14001 審査会社による外部環境監査をグループ全域で定期的に受け、環境マネジメントシステムの適正化をはかっています。

2014年度 外部環境監査の結果

区分	指摘・改善件数
環境法令等の逸脱リスクに関する不適合	5
その他の環境リスクに関する不適合	4
改善実施の推奨	12

江蘇富天江電子电器有限公司は件数に含みません

環境教育・啓発

環境教育

富士通ゼネラルでは、人材の基礎教育である新入社員研修や幹部社員養成研修において環境教育を行うほか、各職域において計画的に環境教育を実施しています。

また、短期間雇用の作業員に対しても高い環境意識が求められることから、環境教育を行っています。

新入社員教育



本社



富士通將軍中央空調（無錫）



富士通將軍（上海）

社員に対する環境啓発

グループ各社では社員啓発のためにさまざまな行事を行っています。

FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD. では、毎年「環境週間」を設定して活動しており、2014年度は、廃材を利用した「衣装コンテスト」を実施したほか、環境クイズやゲームを通じて自然環境を守ることへの意識高

環境クイズ・ゲーム（環境週間行事）



揚をはかりました。

廃材を利用した衣装コンテスト（環境週間行事）



環境コミュニケーション

環境報告・カタログ

1999年より毎年環境報告書を発行しており、経営トップのメッセージとあわせて富士通ゼネラルグループの環境活動についてご報告しています。また、ウェブサイトによる環境情報の発信も充実をはかっています。環境報告書はウェブページにてどなたでもご覧いただけます。

そのほか、カタログにて製品それぞれの環境技術などについてご説明しています。



展示会

2014年度は、富士通グループが参加する展示会にグループ会社として共同参加したほか、海外グループ会社が展示会に参加し、環境技術をご紹介するとともに、製品の提案を行いました。



「エコプロダクツ 2014」(日本)



空調機器展示会「ARBS2014」
(オーストラリア)



空調機器展示会
「AHR EXPO 2015」
(アメリカ合衆国)

お取引先とのコミュニケーション

グリーン調達ガイドライン・指定化学物質

富士通ゼネラルは、富士通グループ各社と連携してグリーン調達活動を推進しており、「グリーン調達ガイドライン」と「指定化学物質」について、富士通グループ共通の冊子をウェブサイトに掲載し、お取引先にご案内しています。

富士通グループ グリーン調達ガイドライン
(中国語版・英語版・日本語版)



富士通グループ 指定化学物質
(中国語版・英語版・日本語版)



製品含有化学物質対応のご説明

製品含有化学物質を、サプライチェーン全体で管理するため、お取引先に対して富士通ゼネラルグループの化学物質管理体制についてご案内しています。また、調査の実施とお取引先における化学物質管理体制の構築についても、ご協力をお願いしています。

生産グループ会社が開催したお取引先説明会



富士通將軍中央空調(無錫)



富士通將軍(上海)

社会活動・表彰

環境に関する社会活動への参加

富士通株式会社のボランティア活動

富士通株式会社では、川崎市と共同で、都市近郊に残る貴重な自然である栗木山王山地区特別緑地保全地区（川崎市麻生区）の森林荒廃を防ぐボランティア活動を行っており、富士通ゼネラル社員も活動に参加しています。2014年度は、竹林の伐採整備に協力しました。



川崎市の緑地保全活動

地域の除草・清掃活動

青森事業所では、事業所とJR・七戸十和田駅とがともに接する七戸町道において、植栽部分の除草などの整備活動に協力しています。また、株式会社富士通ゼネラルエレクトロニクスでは、JR・一ノ関駅周辺の清掃活動を行っています。



七戸十和田駅周辺の除草活動



一ノ関駅周辺の清掃活動

エコキャップ運動

青森事業所では、ペットボトルキャップの資源化を通じて発展途上国の子供たちに対するワクチン接種を支援する「エコキャップ運動」に参加しています。2014年度は、2,244個のキャップを回収し、地域サークルボランティアのエコちゃん倶楽部様を通じてその売却益を認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会様に寄付しました。

【訂正とお詫び】

「環境報告書2014」において、本社のエコキャップ運動（実施者：株式会社富士通ゼネラルハートウエア）により、「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会様を通じて、180人分のポリオワクチンが発展途上国の子供たちに届けられた」というご報告をいたしました。実際には仲介事業者様からはご報告とは異なる内容で寄付が行われていたことが判明しました。つきましては、記事を訂正するとともに、事実と異なる内容を掲載しましたこととお詫びいたします。

今後は寄付が適切に活用されるよう、運用の見直しを行ってまいります。

表彰

環境を含む製品性能や事業活動に対して表彰されました。

米国・空調専門誌による表彰

北米向け小型フロアタイプ・インバーターエアコン「RLFF」シリーズの寒冷地仕様モデルが、米国・空調専門誌「the NEWS」主催の「Dealer Design Awards」において「High-Efficiency Residential（住居用省エネ製品）部門」の金賞（Gold Award）を受賞しました。ダクトを使わずに冷媒管を配管・施工する空調システムが寒冷地のニーズにマッチし、高い省エネルギー性能、デザイン性、およびメンテナンス性が評価され、今回の受賞となりました。



生産工場に対する表彰

富士通將軍（上海）有限公司は、上海市嘉定区人民政府などより、先進技術で地域に貢献のあった企業に贈られる「嘉定区先進製造業金賞」を受賞しました。



川崎市の「低CO₂川崎ブランド'14」に認定

川崎市内で設計または製造され、エネルギーCO₂削減に貢献する製品・サービスに対して川崎市が独自に認定する「低CO₂川崎ブランド」に、ルームエアコン「ノクリア®」Xシリーズ、およびZシリーズが認定されました。

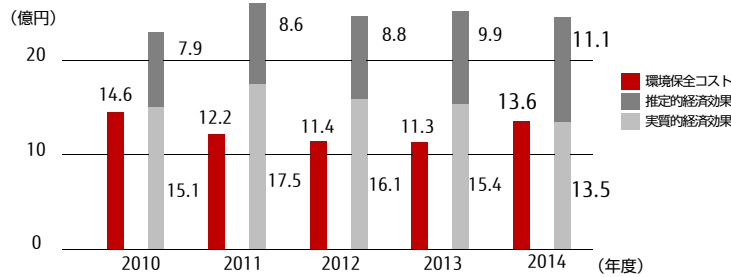
データ集

環境会計

(2014年度)

環境保全コスト (百万円)			
項目	主な内容	費用	
事業エリア内	公害防止コスト	大気汚染防止、水質汚濁防止など	111
	地球環境保全コスト	地球温暖化防止、省エネルギーなど	420
	資源循環コスト	資源の有効利用、廃棄物処理など	383
上・下流コスト	製品の回収・リサイクルなど	65	
管理活動コスト	環境マネジメントシステムによる管理など	33	
研究開発コスト	環境配慮製品の研究・開発など	323	
社会活動コスト	自然環境保全のための寄付など	0	
環境損傷対応コスト	土壌・地下水汚染に関わる修復費	21	
合計		1,356	

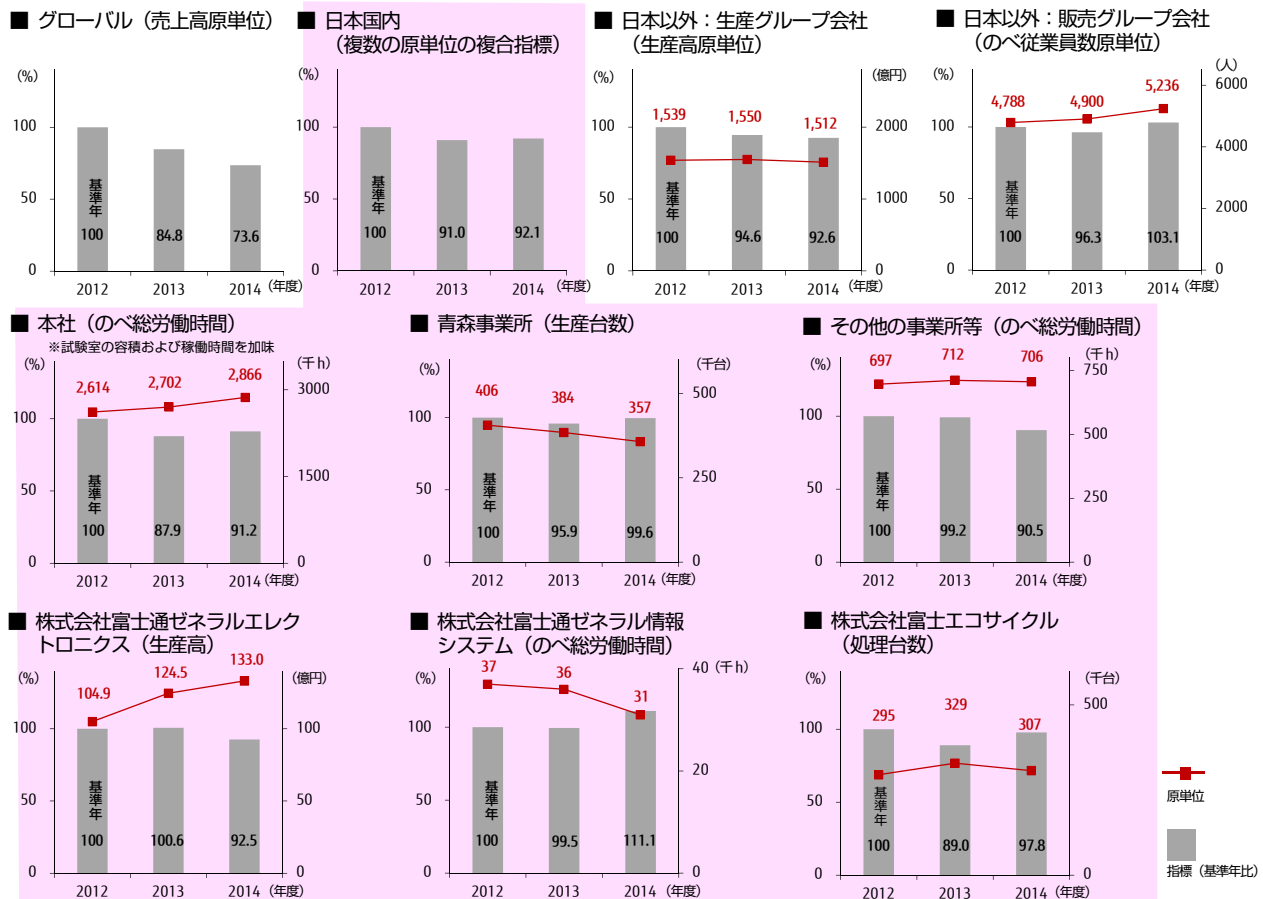
環境保全対策にともなう経済効果 (百万円)		
項目	主な内容	効果
実質的効果	有価物の売却益、廃棄物処理費の削減など	1,348
推定的効果	環境保全施設の管理や環境配慮製品の開発による、みなし効果	1,110
合計		2,458



現在、エアコンの冷媒ガスは温暖化係数の低いR-32への転換を進めています。このため、中国やタイでエアコンを生産するグループ会社において生産ラインを順次R-32対応に改修したため、環境保全コスト(地球環境保全)が上昇しました。

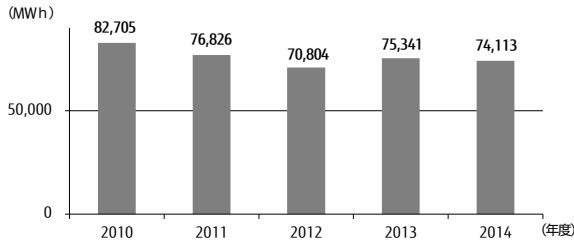
【訂正とお詫び】
「環境報告書 2014」において、2013年度の環境保全コストを1,087百万円とご報告をいたしましたが集計に誤りがあり、再集計した結果、1,126百万円となりました。金額を訂正するとともに、不正確な情報をご提供しましたことをお詫びいたします。また、今後は再発の防止に努めてまいります。

環境行動計画：温室効果ガス原単位管理

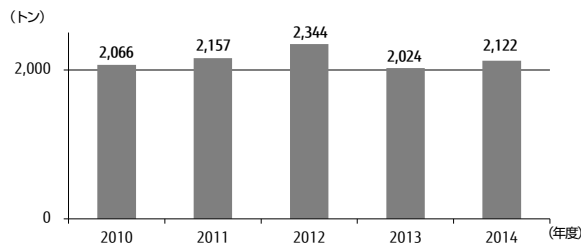


エネルギー

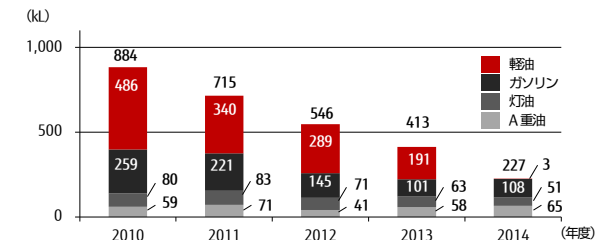
■ 電力



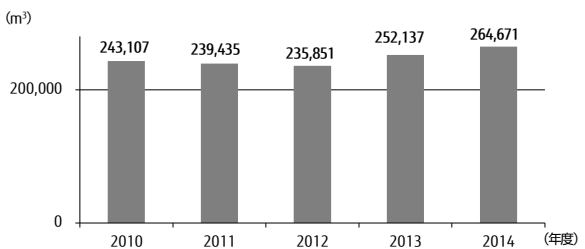
■ LPG



■ 石油類

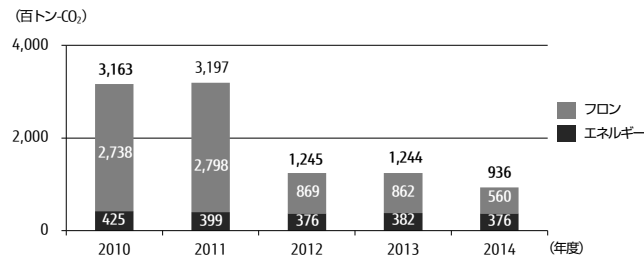


■ 都市ガス

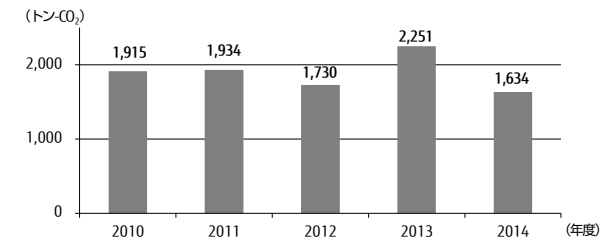


大気への排出

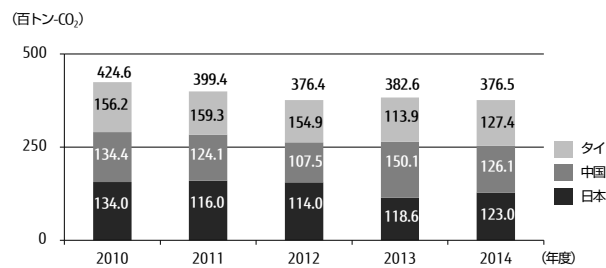
■ 事業活動にともなう温室効果ガスの排出量 (CO₂換算)



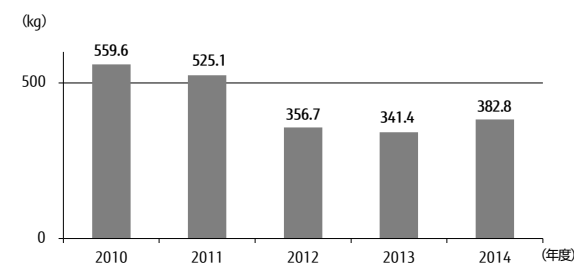
■ 日本国内の製品物流にともなう温室効果ガス排出量 (推定値)



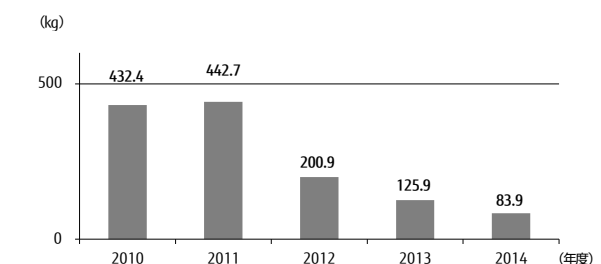
■ エネルギー消費にともなう温室効果ガスの排出量



■ 窒素酸化物 (NO_x)

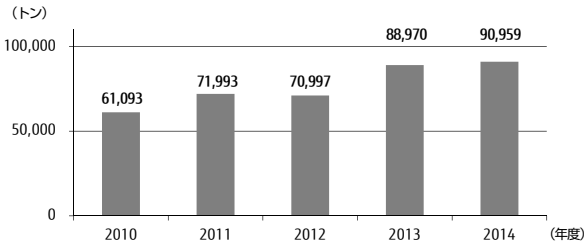


■ 硫黄酸化物 (SO_x)

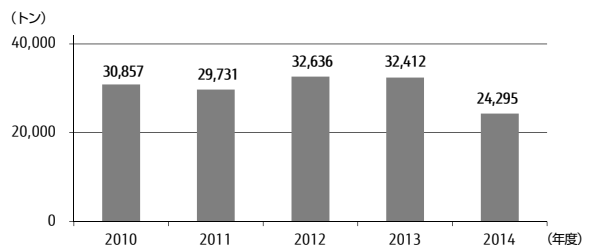


原材料（資材・副資材）

■ 金属使用量

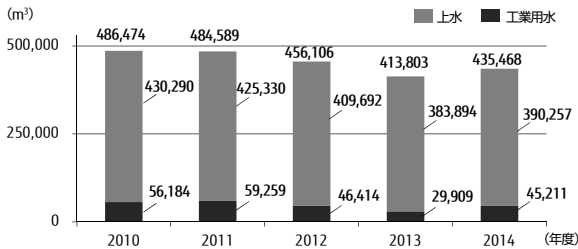


■ 金属以外（プラスチック等）の使用量

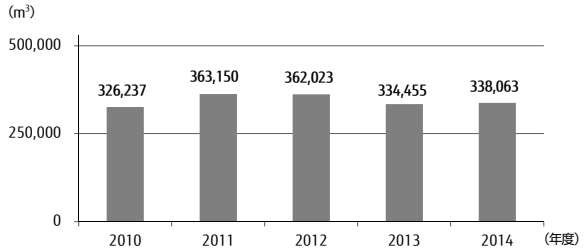


水

■ 使用量

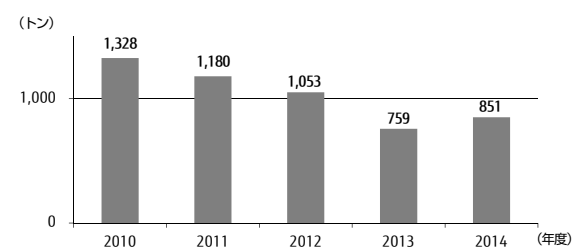


■ 排水量

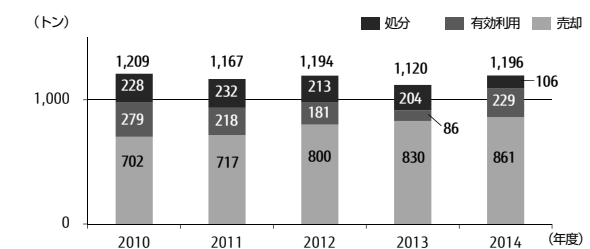


廃棄物

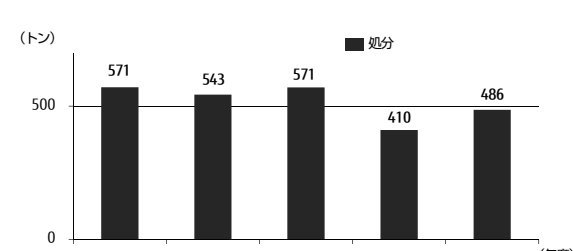
■ 全グループ廃棄物量 ※売却分を除く



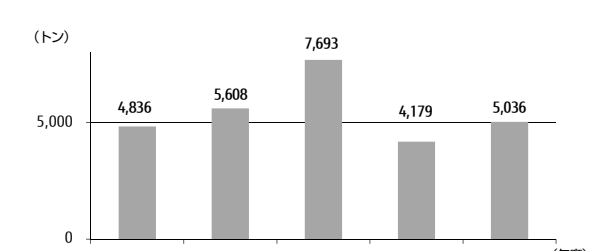
■ 総排出量（日本：事業所／グループ会社）



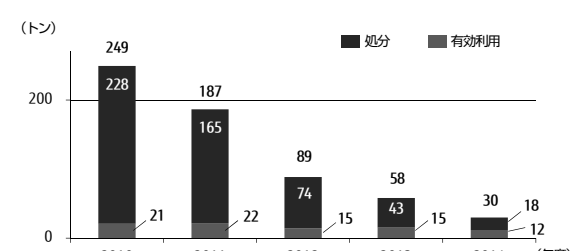
■ 廃棄物量（タイ：生産グループ会社） ※売却分を除く



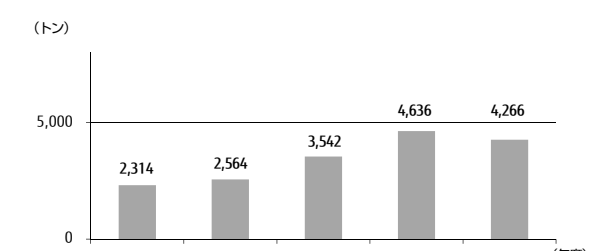
■ 不要物売却量（タイ：生産グループ会社）



■ 廃棄物量（中国：生産グループ会社） ※売却分を除く



■ 不要物売却量（中国：生産グループ会社）



化学物質取扱量 (PRTR 法対象物質)

2014 年度

化学物質名	CAS 番号	取扱量 (kg)
キシレン xylene	1330-20-7	139
トルエン toluene	108-88-3	1,290
鉛 lead	7439-92-1	190
りん酸トリトリル Tritolyl phosphate	1330-78-5	110

化学物質取扱量は、日本国内の各事業所・グループ会社で 2014 年度を取扱量が 100kg 以上だった化学物質について、取扱量を合算しています。

家電リサイクルの実績

■ 再商品化等処理実績

項目	年度	エアコン	テレビ		冷蔵庫・冷凍庫	洗濯機・衣類乾燥機
			ブラウン管式	液晶式・プラズマ式		
【再商品化等実施状況】						
指定引取場所での引取台数	2013 年度	189,826 台	3,030 台	264 台	189,826 台	9,397 台
	2014 年度	152,809 台	2,584 台	199 台	124,880 台	7,228 台
再商品化等処理台数	2013 年度	177,088 台	3,025 台	277 台	156,259 台	8,900 台
	2014 年度	164,417 台	2,604 台	207 台	134,485 台	7,797 台
再商品化等処理重量	2013 年度	7,257 トン	79 トン	5 トン	9,987 トン	317 トン
	2014 年度	6,740 トン	66 トン	4 トン	8,444 トン	281 トン
再商品化重量	2013 年度	6,894 トン	63 トン	4 トン	8,203 トン	299 トン
	2014 年度	6,416 トン	51 トン	3 トン	6,863 トン	264 トン
再商品化率	2013 年度	95%	79%	90%	82%	94%
	2014 年度	95%	77%	89%	81%	94%
【部品・材料での再使用状況】						
鉄	2013 年度	1,664 トン	9 トン	1 トン	3,894 トン	138 トン
	2014 年度	1,529 トン	7 トン	1 トン	3,267 トン	122 トン
銅	2013 年度	458 トン	3 トン	0 トン	185 トン	7 トン
	2014 年度	419 トン	2 トン	0 トン	159 トン	6 トン
アルミニウム	2013 年度	1,126 トン	0 トン	0 トン	110 トン	4 トン
	2014 年度	1,047 トン	0 トン	0 トン	100 トン	4 トン
非鉄・鉄など混合物	2013 年度	2,312 トン	0 トン	0 トン	1,354 トン	36 トン
	2014 年度	2,116 トン	0 トン	0 トン	1,103 トン	30 トン
ブラウン管ガラス	2013 年度	—	31 トン	—	—	—
	2014 年度	—	23 トン	—	—	—
その他の有価物	2013 年度	1,332 トン	19 トン	2 トン	2,656 トン	112 トン
	2014 年度	1,173 トン	16 トン	1 トン	2,202 トン	99 トン
総重量	2013 年度	6,894 トン	63 トン	4 トン	8,203 トン	299 トン
	2014 年度	6,286 トン	50 トン	3 トン	6,834 トン	263 トン
【冷媒フロン回収等の状況】						
指定引取場所での引取台数	2013 年度	115,169kg	—	—	15,117 トン	—
	2014 年度	108,742kg	—	—	12,532 トン	—
破壊等委託先に出荷した重量	2013 年度	114,760kg	—	—	15,082 トン	—
	2014 年度	108,661kg	—	—	12,593 トン	—
再生または再利用重量	2013 年度	—	—	—	—	—
	2014 年度	75,421kg	—	—	5,039 トン	—
破壊重量	2013 年度	113,903kg	—	—	14,958 トン	—
	2014 年度	33,959kg	—	—	7,606 トン	—
【断熱材に含まれるフロン回収等の状況】						
回収重量	2013 年度	—	—	—	17,462 トン	—
	2014 年度	—	—	—	16,384 トン	—
破壊委託先に出荷した重量	2013 年度	—	—	—	17,390 トン	—
	2014 年度	—	—	—	16,353 トン	—
破壊重量	2013 年度	—	—	—	17,097 トン	—
	2014 年度	—	—	—	16,311 トン	—

事業所の紹介

本 社

概 要

前身となる八欧電機株式会社が1955年に川崎工場として建設。ラジオ、音響、テレビの生産から始まり、無線機部門、家庭電器部門と生産規模を順次拡大したのち、1958年に本社となりました。現在も富士通ゼネラルグループの中核であるとともに、製品やシステムの研究開発拠点としての役割を担っています。

■ 所在地 : 神奈川県川崎市高津区末長3丁目3番17号

環境の主な取り組み

本社は、富士通ゼネラルグループ全体の環境経営を統括する重要な役割を担っています。また、現在は製品の開発や営業戦略の中核として機能しており、社会の環境負荷の低減と環境効率の向上に資する経営戦略が本社からグローバルに展開されています。

青森事業所

概 要

1967年に設立した野辺地ゼネラル株式会社の工場としてスタートし、2006年からは現在の青森事業所となりました。設立当初から、一貫してモーターの製造を行っています。2010年には隣接地に東北新幹線の七戸十和田駅が開業し、周辺環境が大きく変わりつつあります。

■ 所在地 : 青森県上北郡七戸町字荒熊内67番地2

環境の主な取り組み

事業所の周辺は牧場や農地が広がり、近隣には貴重な野生生物が多数生息する仏沼（ラムサール条約登録湿地）があるなど、豊かな生態系が残っています。それらの環境と調和し保全していくために、モーター製造工程で使用する有機溶剤等の化学物質について、徹底した管理と使用量削減に取り組んでいます。

浜松事業所

概 要

1973年に設立した中部ゼネラル株式会社の工場（完成は1977年）としてスタートし、長らく国内・海外向けエアコンの開発・生産拠点として重要な役割を担ってきました。2001年に現在の浜松事業所となり、生産拠点の海外移転にともない、2010年には株式会社富士エコサイクル（家電リサイクルプラント）が事業所内に移転しました。現在は製品の修理ならびにリサイクルの事業拠点となっています。

■ 所在地 : 静岡県浜松市北区細江町中川1930番地4

環境の主な取り組み

希少野生生物の生息地を含む浜名湖県立自然公園に近く、自然環境との調和に配慮した事業を行っています。水を使用しないリサイクルの取り組みを行うほか、ビオトープでの生物モニタリングなども行っています。

松原事業所

概 要

1957年に設立したゼネラル照明機器株式会社の工場としてスタートしました。製造が終了したあとは、関西地区における製品サービスサポートの事務所として運用していましたが、2013年に社屋を一新したのを機会に、分散していた営業機能を集約しました。

■ 所在地 : 大阪府松原市西野々2丁目1番45号

環境の主な取り組み

関西地区の営業・サービス活動の中心であり、お客様とのかかわりの中で、製品やサービスを通じた社会の環境負荷低減などを目指しています。

また、事業所の環境負荷低減はもとより、大都市圏における自社営業車両の運用効率化などにも取り組んでいます。

グループ会社の紹介

株式会社富士通ゼネラルエレクトロニクス

企業概要

1964年にラジオやオーディオ機器を生産するゼネラル電子工業株式会社として設立しました。1999年に富士通ゼネラルの電子デバイス部門を統合しており、現在は車載カメラやロボットコントローラー、電子デバイス、および情報通信システム機器、などを生産しています。

- 所在地 : 岩手県一関市相去3番地の1
- 敷地面積 : 32,134m² ■ 建物総面積 : 16,538m²
- 従業員 : 407名 (2015年3月現在・非正規社員を含む)

環境の主な取り組み

環境配慮製品を開発するとともに、生産の効率化など事務所・工場環境負荷低減により、省エネルギーと温室効果ガス排出量の削減を追求しています。また、電子デバイスの生産に必要な化学物質の徹底した管理を行うとともに、廃棄物のリサイクルにも積極的に取り組んでいます。



スタッフメッセージ

当社では、自動車メーカーやディーラーなどで搭載する車載カメラの開発・生産を行っています。

2014年度は、車載カメラの消費電力を従来品との比較で20%削減する画像処理LSIを開発し、製品に使用しました。

これからも、電子デバイスの徹底した省エネルギー化により、車社会における環境負荷の低減を支えていきます。



事業推進部 担当部長
大窪 英資

FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD.

企業概要

タイ王国のレムチャバン工業団地(チョンブリー県シラチャー郡)に、1991年に設立しました。ルームエアコンからビル用マルチエアコンまで多種類のエアコンを生産しています。工場はレムチャバン港に隣接しており、効率的な船積みが可能です。

- 所在地 : Laem Chabang Industrial Estate, I-EA-T, Free Zone 1
92/9 Moo 2, Thungsukhla, Sriracha, Chonburi, Thailand
- 敷地面積 : 100,800m² ■ 建物総面積 : 55,800m²
- 従業員 : 2,456名 (2015年3月現在・非正規社員を含む)

環境の主な取り組み

使用エネルギーの削減やフロンガス漏えい防止管理などを通じて、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。また、社員ボランティアによる社会貢献活動も推進しており、海岸干潟のマングローブを再生する植林活動や、パタヤ海岸や寺院などの清掃活動を行っています。



スタッフメッセージ

当社は操業開始から20年以上が経過し設備の老朽化が目立っているため、環境負荷のより低い設備への更新を順次進めています。

また、すべての業務で環境保全の考えが確実に実践されるように、タイの習慣にも配慮しつつ、ルールなどシステムの見直しを積極的に行っています。さらに、環境の保全が国と国民の豊かな未来を守るという考えに基づき、社員の啓発活動や環境教育に力を入れています。



EMS (ISO14001) 担当
パタラウィジットラー・
シーワロム

富士通将軍 (上海) 有限公司

企業概要

富士通将軍 (上海) 有限公司は1996年に操業を開始しました。現在は主にルームエアコン (年産約150万セット) を生産しています。2013年にはエアコン製品設計を担うテクニカルセンターを増強し、設計から製造まで一貫した管理のもと、「品質第一、お客様第一」をモットーとして、高品質・高性能のエアコンで社会への貢献をめざします。

- 所在地 : 中華人民共和国上海市嘉定区回城南路1720号
- 敷地面積 : 92,134m² ■ 建物総面積 : 34,850m²
- 従業員 : 3,023名 (2015年3月現在・非正規社員を含む)

環境の主な取り組み

製品に使用する冷媒について、環境負荷の少ないフロンへの転換を進めています。また、製造工程におけるフロン漏えい防止対策も強化しています。

省エネルギーでは、工場内照明の効率化 (LED化) や空調設備の見直しなどに取り組んでいます。



スタッフメッセージ

当社は操業開始から18年が経過しました。このため施設の老朽化が目立つようになっており、環境影響の大きい設備を更新することで環境負荷の低減をはかっています。特にボイラーは、燃料を軽油からLPGへ変更したことで燃焼効率を大幅に改善させました。また、工場内の換気システムを効率化するなど、環境に加え働きやすい職場の実現にも取り組んでいます。



人事総務統括部長
林 永佳

富士通将軍中央空調 (無錫) 有限公司

企業概要

富士通将軍中央空調 (無錫) 有限公司は2006年に設立、2008年に竣工した最新鋭の工場で、ビル用マルチエアコン (VRF) の研究開発、生産、販売、設置およびメンテナンスを事業としています。高度な技術と経験並びに品質管理で、優れた製品により快適さを提供するとともに、地球環境を保全していきます。

- 所在地 : 中華人民共和国江蘇省無錫市新区濠江路10号
- 敷地面積 : 33,367m² ■ 建物総面積 : 28,763m²
- 従業員 : 696名 (2015年3月現在・非正規社員を含む)

環境の主な取り組み

省エネルギーや省資源とともに冷媒フロン対策を強化しています。一部の販売先 (地域) で残っているR-22冷媒機種をR-410冷媒機種に転換するとともに、より環境負荷の少ないR-32冷媒機種の拡大に努めています。また製造工程による冷媒回収を徹底し、温室効果ガスの抑制に努めています。



スタッフメッセージ

2014年度は、食堂の空調機を省エネルギー能力の高い機種に入れ替えました。さらに工場内の空調機を集中制御化することで、電力消費の効率化をはかっています。また、事務所の照明のLED化も推進しています。これからも、当社で働くすべての人の環境意識を高めていくとともに、より良い職場環境を社員に提供できるよう、活動を推進していきます。



環境リーダー 王 喆

その他の開発・生産グループ会社

FUJITSU GENERAL ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.

事業概要

1999年に、エアコンの研究と開発を行う会社として設立しました。設立以来一貫して、人と環境にやさしいエアコンを追求し続けてきました。

■ 所在地：FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD. 内



FGA (THAILAND) CO., LTD.

事業概要

エアコン用のモーター生産を目的に、FUJITSU GENERAL (THAILAND) CO., LTD. の近隣に1998年に設立しました。

■ 所在地：Laem Chabang Industrial Estate, I-EA-T, Free Zone 2 212 Moo 3, Thungsukhla, Sriracha, Chonburi, Thailand



江蘇富天江電子電器有限公司

事業概要

2003年に、江蘇小天鵝集團有限公司との合併で設立しました。生産品目は、プラスチック DC モーター、AC インバーターモーター、および関連電子部品で、年間 500 万台の生産能力を有します。

■ 所在地：中華人民共和國江蘇省靖江市開發區江州路 8 号



主な非生産グループ会社

株式会社富士通ゼネラル情報システム

事業概要

富士通グループのリソースを活かしたソリューションサービスを提供しています。特に、JA 選果場、オフィス、店舗、工場などで「省力化と快適な環境づくり」をめざしたご提案を行っています。

■ ソフトウェア開発、事務及び OA 機器の販売サービス請負、電話 デジタル通信など電気通信サービス契約取扱代行

■ 所在地：東京都港区芝浦 2 丁目 3 番 31 号 第 2 高取ビル 6F

株式会社富士通ゼネラル イーエムシー研究所

事業概要

各種規格適合試験および申請、各種ノイズに関する支援やコンサルティングなど、最新の設備と豊かな経験でお客様の要望に応えています。また、出張による測定・試験サービスも実施しています。

■ 所在地：富士通ゼネラル 本社内



株式会社富士エコサイクル

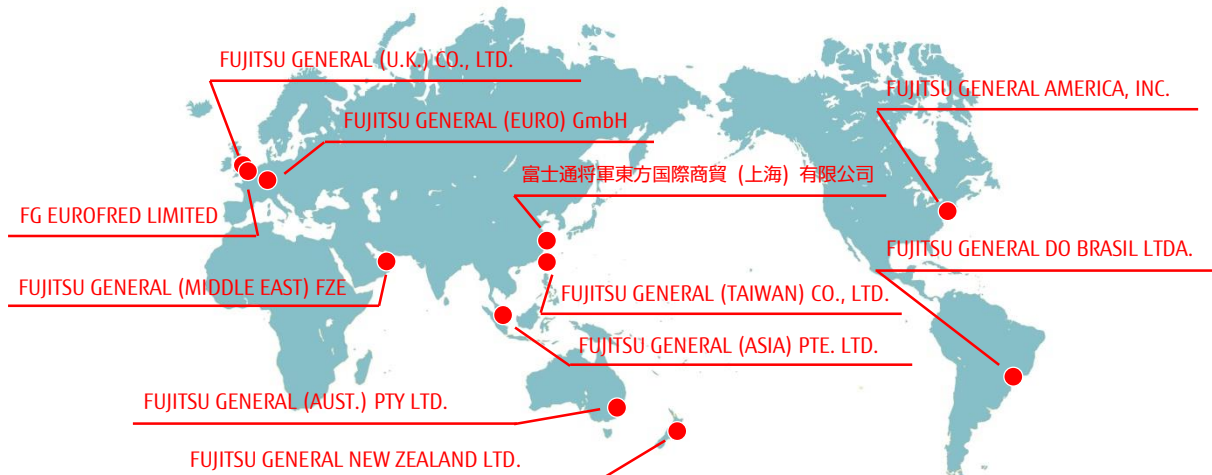
事業概要

家電メーカー 5 社ならびに株式会社エンビプロ・ホールディングス（リサイクル企業）との合併により、2000年に設立しました。使用済み家電製品を家電メーカー各社から受託し処理を行っています。

■ 所在地：富士通ゼネラル 浜松事業所内



販売グループ会社（海外）



富士通ゼネラルグループ概要 (2015年3月31日現在)

社名	株式会社富士通ゼネラル (FUJITSU GENERAL LIMITED)
所在地	本社 〒213-8502 神奈川県川崎市高津区末長3丁目3番17号
代表者	代表取締役社長 斎藤 悦郎 ※ 2015年6月23日現在
設立	1936年1月15日
事業内容	空調機、情報通信・電子デバイス両部門において、製品および部品の開発、製造、販売、ならびにサービスの提供
資本金	180億8,910万円
従業員数	連結 6,091名 単独 1,527名
取締役員数	11名 (うち社外取締役 2名) ※ 2015年6月23日現在
連結子会社数	30社
持分法適用関連会社数	3社
売上高	連結 2,748億700万円 単独 2,236億6,600万円
上場証券取引所	東京証券取引所 (第一部)

■ 主要な製品、システム、サービス

空調機

ルームエアコン、ビル用マルチエアコン、ヒートポンプ式温水暖房システム、空調関連商品

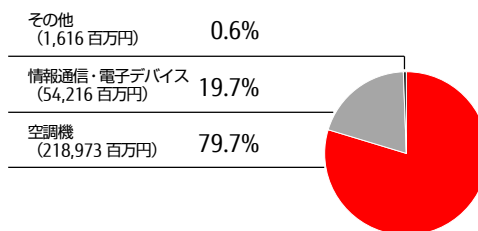
情報通信・電子デバイス

消防システム、防災システム、POSシステム、映像システム、車載カメラ、電子部品、ユニット製品

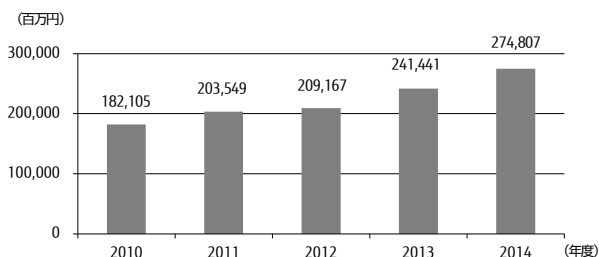
その他

家電製品のリサイクル、電磁波障害に関する測定およびコンサルティング

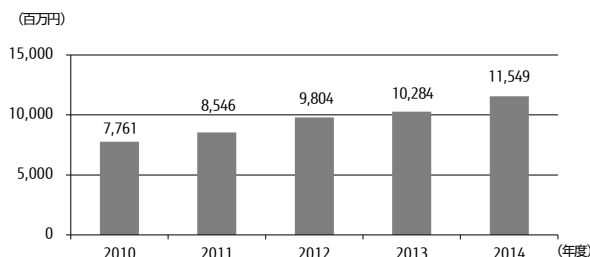
■ 2014年度事業セグメント別売上高比



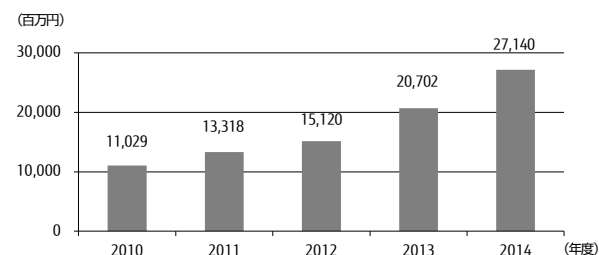
■ 売上高推移



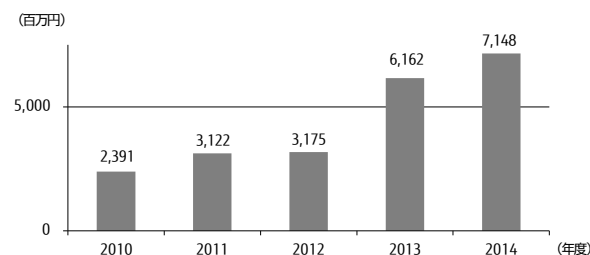
■ 研究開発費



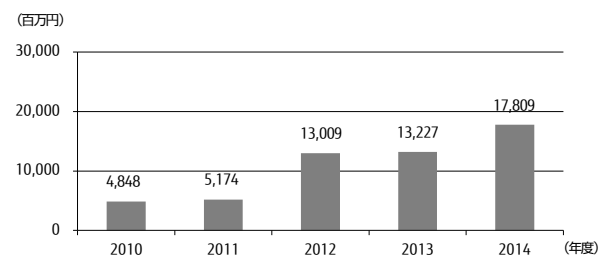
■ 営業利益



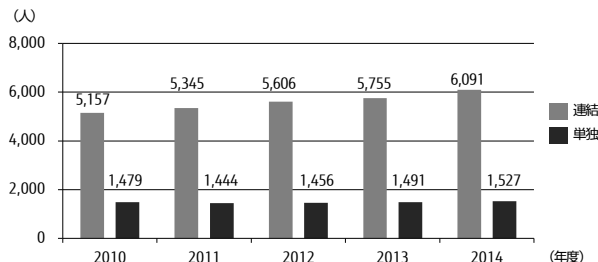
■ 設備投資



■ 当期純利益



■ 従業員数



「富士通ゼネラルグループ 環境報告書 2015」アンケート

ご覧いただき、ありがとうございました。

次回の環境報告書を作成する際の参考とさせていただきますので、（きりとり線）で切り離してから、裏面の事項にご記入のうえ、FAXにて返送していただければ幸いです。



〔写真〕 中田島砂丘（静岡県浜松市）

ご記入いただきました個人情報は、環境報告書の作成の参考にさせていただく以外の目的では使用しません。
お客様の情報についての照会や訂正について、下記までご連絡ください。

株式会社富士通ゼネラル 環境統括部 環境計画部

TEL : 044 - 861 - 7768

株式会社富士通ゼネラル 環境計画部

Q1 富士通ゼネラルの環境活動についてご存じでしたか？

- 知っていた
- 少し知っていた
- 知らなかった

Q2 本報告書をお読みいただいてどのように感じましたか？

- <掲載内容> 十分 不十分
- <記事の情報量> 多い 普通 少ない
- <読みやすさ> 読みやすい 普通 読みにくい

Q3 本報告書で関心を持った内容はどの部分ですか？（複数選択可）

- TOP MESSAGE 経営理念・環境方針
- 第7期富士通ゼネラルグループ環境行動計画 空調機事業・ホーム機器事業
- 情報通信事業 電子デバイス事業 マテリアルバランス
- 温室効果ガス (GHG) 排出 廃棄物・化学物質 水・公害対策・生物多様性
- リサイクル (製品・容器包装) ガバナンス体制 製品の環境アセスメント
- 緊急事態・事業継続 環境監査・環境教育 環境コミュニケーション
- 社会活動・表彰 データ集 事業所の紹介
- グループ会社の紹介 富士通ゼネラルグループ概要

Q4 本報告書をどのような立場で読まれているか教えてください。

- 富士通ゼネラル製品のお客様 富士通ゼネラルグループ事業所の近隣住民 企業の環境担当
- 一般消費者 株主 NGO・NPO
- 行政 学校・大学・研究機関 金融・投資関係者
- 学生 その他 ()

Q5 本報告書の存在は何を通じて知りましたか？

- 広報室 NGO・NPO 富士通ゼネラルグループ社員
- 富士通ゼネラルグループ営業担当 友人 展示会
- ホームページ 工場見学 その他 ()

Q6 本報告書へのご意見・ご要望などをお聞かせください。

(ま
り
と
り
線
)

(ふりがな)
お名前

ご住所

勤務先名

部署名

環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」対照表

（説明ページ）

環境報告の基本的事項

1. 報告にあたっての基本的要件	(1) 対象組織の範囲・対象期間	1
	(2) 対象範囲の捕捉情報率と対象期間の差異	—
	(3) 報告方針	1
	(4) 公表媒体の方針等	1, 36
2. 経営責任者の諸言		3
3. 環境報告の概要	(1) 環境配慮経営等の概要	4, 21
	(2) 主要業績評価指標（KPI）の時系列一覧	35
	(3) 個別の環境課題に関する対応総括	5~6
4. マテリアルバランス		15

環境マネジメントなどの環境配慮経営に関する状況を表す情報・指標

1. 環境配慮の方針、ビジョンおよび事業戦略など	(1) 環境配慮の方針	4
	(2) 重要な課題、ビジョンおよび事業戦略など	4~6
2. 組織体制およびガバナンスの状況	(1) 環境配慮経営の組織体制など	21
	(2) 環境リスクマネジメント体制	—
	(3) 環境に関する規制などの遵守状況	24
3. ステークホルダーへの対応の状況	(1) ステークホルダーへの対応	25
	(2) 環境に関する社会貢献活動など	26
4. バリューチェーンにおける環境配慮などの取組状況	(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略など	22
	(2) グリーン購入・調達	22
	(3) 環境負荷低減に資する製品・サービスなど	7~14
	(4) 環境関連の新技术・研究開発	7~14
	(5) 環境に配慮した輸送	17
	(6) 環境に配慮した資源・不動産開発や投資など	27
	(7) 環境に配慮した廃棄物処理やリサイクルなど	18, 20

事業活動にともなう環境負荷および環境配慮などの取り組みに関する状況を表す情報・指標

1. 資源・エネルギーの投入状況	(1) 総エネルギー投入量およびその低減対策	15~17, 28
	(2) 総物質投入量およびその低減対策	15, 29
	(3) 水資源投入量およびその低減対策	15, 19, 29
2. 資源などの循環的利用の状況（事業エリア内）		—
3. 生産物・環境負荷の産出・排出などの状況	(1) 総製品生産量または総商品販売量など	—
	(2) 温室効果ガスの排出量およびその低減対策	15~17, 28
	(3) 総排水量およびその低減対策	15, 19, 29
	(4) 大気汚染、生活環境に係わる負荷量およびその低減対策	15, 28
	(5) 化学物質の排出量、移動量およびその低減対策	15, 18, 30
	(6) 廃棄物などの総排出量、廃棄物最終処分量、およびその低減対策	15, 18, 29
	(7) 有害物質などの漏出量およびその防止対策	15, 18, 23
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況		19

環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況を表す情報・指標

1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	(1) 事業者における経済的側面の状況	27
	(2) 社会における経済的側面の状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況		—

その他の記載事項

1. 後発事象など	(1) 後発事象	—
	(2) 臨時的事象	—
2. 環境情報の第三者審査など		—

株式会社 富士通ゼネラル

環境統括部 環境計画部

〒213-8502 神奈川県川崎市高津区末長 3 丁目 3 番 17 号

TEL:044-861-7768 FAX:044-861-7772

<http://www.fujitsu-general.com/jp/corporate/eco/>